

令和5年度

小学校家庭科実践集録

第59号



愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会

目 次

はじめに

研究の計画	-----	1
研究実践		
(1) 地域を見つめ、問題を見だし、解決しようとする子どもの育成 －第6学年「あなたは家族や地域の宝物」の実践を通して－ (西条支部)	-----	3
(2) 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 －第6学年「こんだてを工夫して」の実践を通して－ (今治・越智支部)	-----	9
(3) 生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する児童の育成 －第6学年「生活を豊かにソーイング」の実践を通して－ (松山支部)	-----	15
(4) 日常生活に必要な知識・技能を身に付け、課題を解決する力を養う学習指導の在り方 －第6学年「こんだてを工夫して」の実践を通して－ (伊予支部)	-----	21
(5) 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 －第5学年「食べて元気に」の実践を通して－ (大洲支部)	-----	27
(6) 食生活をよりよくしようと実践する子どもの育成 －第5・6学年複式学級「食べて元気に」の実践を通して－ (宇和島支部)	-----	33
研究会報告	-----	37
令和5年度 愛媛県教育研究協議会技術・家庭委員会小学校部会役員名簿	-----	38

はじめに

令和2年4月から全面実施となった小学校学習指導要領が4年目を迎えました。各学校におかれましては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、通常の教育活動が行われ始め、小学校家庭科が目指す資質・能力を育成するために、指導と評価の一体化を図った指導計画を作成し、日々実践を積み重ね、授業改善等に取り組まれていることと思います。

今後の社会を担う子どもたちには、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化、少子高齢化といった社会の変化の中で、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決できる能力が求められています。このような時代を生き抜いていかなければならないからこそ、一人一人が自立し、家庭や地域の人々と共に支え合う生活を創造することが極めて重要であり、その基礎を担う家庭科教育が果たす役割は極めて大きいものと考えます。

小学校家庭科においては、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する」ことを目指しています。この家庭科教育で目指す資質・能力を育てるために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を求めて、日々の授業実践を積み重ねているところです。

愛媛県教育研究協議会技術・家庭委員会小学校部会では、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育 ―生活を見つめ、考え、よりよくしようとする実践する子どもの育成―」として、「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能」、「生活を見つめ、課題を解決する力」、「家庭生活を大切する心情、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度」の三つの資質・能力の育成を目指して、研究を進めています。各学校においては、学習評価の工夫と蓄積、1人1台端末などのICTの活用等により、さらに質の高い学びにつなげようとしていることと思います。

本集録には、県下各支部の先生方が創意工夫を凝らして取り組んだすばらしい研究実践がまとめられています。本集録に収められた研究実践を各学校の実態に応じてさらに改善を加えながら、日々の指導に生かしていただきたいと思います。

最後になりましたが、本集録の作成に当たり御尽力いただきました、すべての関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。

令和6年2月

愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会
小学校部会委員長 秋山 恵美

(小学校)

家 庭

I 研究主題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

－生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成－

II 研究のねらい

- 子ども一人一人が、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるようにする。
- 生活を見つめ、人、自然や環境、社会、生活文化と豊かに関わりながら課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

III 研究の視点

1 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画

(1) 育成すべき資質・能力の明確化

- 知識及び技能の習得に係る事項と、知識及び技能を活用して思考力、判断力、表現力等を育成することに係る事項との関連を図りながら、各題材で育成すべき資質・能力の明確化を図る。
- 習得した知識及び技能を活用して身近な生活の課題を解決する資質・能力を育むため、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れる。

(2) 家庭生活を総合的に捉えたカリキュラム・マネジメントの推進

- 段階的に繰り返し学びながら基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られるよう題材構成や配列を工夫する。
- 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の内容を相互に関連させ、指導の効果を高める。
- 児童の実態に応じて、家庭と地域との関連、学校行事や他教科等との関連を図りながら、題材や学習活動を設定する。
- 小・中学校5年間の学びの見通しをもち、系統的な指導が行えるよう指導計画を見直す。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(1) できる・分かる・考え実行する授業づくり

できる・分かる・考え実行する授業とは…

- 日常生活から問題を見だし、解決すべき課題の追究を通して、自分の思いや願いがかなうわくわくする授業
- 生活に必要な力が身に付いたと実感できる授業
- 身に付けた力を基に、生活をよりよくする方法を新たに考え出す授業
- 考えを出し合いながら、自らの考えを広げ深め、課題解決に向けていきいきと行動する授業
- 生活に生かしたいという実践意欲がむくむくと湧き起こる授業

(2) 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、計画、実践、評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。

- 実習や観察、調査、実験など実践的・体験的な活動を充実させ、課題の解決に向けて実践する力を育成する。
 - 学習内容を生活で生かす場を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚し、実践する喜びに気付いたりする活動の充実を図る。
 - 個に応じた指導内容や指導方法を工夫し、子ども一人一人の個性を生かし伸ばす学びを確保する。
- (3) 対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫
- 課題解決に向けて、学びの協働や意見の交流を図り、思考を広げ深め合う学習場面を設定する。
 - 言葉や図表、概念などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、体験したことを説明したり、表現したりするなどの言語活動を充実させる。
 - 試行錯誤しながら学習を進められるよう、ICTを積極的に活用し、思考の過程や結果を可視化・共有化したり、情報を収集し編集したりすることを繰り返し行う。
 - 深い学びにつながるよう、子どもが考える場面と教師が教える場面を効果的に組み立てる。

3 子どもが伸びる学習評価

- (1) 自己の成長を自覚できる評価の工夫
- 子どもの思考を可視化し、学習過程を評価できるワークシートや評価カードを工夫する。
 - 2年間の自己の学びや成長を実感できるワークシートや記録の仕方を工夫する。
- (2) 子どもの成長や授業改善に生きる評価の工夫と蓄積
- 目標を明確にし、具体的な評価規準を基に適切な方法で評価したものを蓄積し、子どもの指導や授業の改善に生かすなど、目標・指導・評価の一体化を図る。
 - 子どもの思考の変容や資質・能力の伸びを見取る多様な評価方法を工夫する。

4 家庭や地域との連携

- (1) 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫
- 学校と家庭生活のつながりを重視した指導計画を工夫し、家庭や地域と積極的に連携したり、地域人材・伝統行事等を活用したりする。
 - 生活文化の大切さや郷土のよさに気付く教材開発に努める。
- (2) 継続的な実践を促す工夫
- 各種発行物や参観日等を通して家庭に情報提供し、日常生活や長期休業中の実践への協力を依頼するなど、習得した力を実生活で活用できる場を設定する。

IV 留意事項

- 栄養教諭等との連携など食に関する指導の充実を図り、調理実習では食物アレルギーなどについても配慮する。
- 総合的な学習の時間をはじめ他教科等との関連を図る際は、家庭科としてのねらいを明確にして指導に当たる。
- 特別の教科道徳との関連を図り、指導の内容や時期等に配慮して相互の効果を高める。
- 施設・設備の安全管理や学習環境の整備に努め、安全・衛生に関する指導の徹底を図る。

地域を見つめ、問題を見だし、解決しようとする子どもの育成

—— 第6学年「あなたは家庭や地域の宝物」の実践を通して ——

西条支部

1 研究の視点

- (1) 児童の主体的な学びを促す問題解決的な学習指導の工夫
- (2) 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「あなたは家庭や地域の宝物」
- (2) 目標

○ 家族や地域の人々との関わりについて、家族や地域の人々との「協力」などの視点から、意識を持って、基礎的・基本的な知識を身に付け、よりよい関わりについて考え、工夫することができるようにする。

- (3) 題材設定の理由

○ 児童の実態について

本校は現在、コミュニティ・スクール実践校として地域とともにある学校づくりを目指している。具体的な活動例として、交通安全指導や放課後子ども教室、そして、保護者や地域の方が、「ちょこっとボランティア」として学級に入り、学習支援や教材づくり、校外活動の引率などに参加してくださっている。地域の方と関わる機会が多く、周りの大人から見守られていることを身近に感じる機会が多い。しかし、地域のために自分たちにもできることがあると自覚したり、家族や地域と協力したりすることで安全で快適な生活を目指そうとする心情の育成については十分ではない。

○ 題材について

本題材は、A家族・家庭生活の内容項目(3)「家族や地域の人々との関わり」を受けた題材である。毎日を安全かつ快適に生活するために、課題を持って、地域の人々との関わりや協力などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、よりよい関わりについて考え、工夫する力、実践的な態度を養うことをねらいとしている。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、生活のあらゆる場面で「新しい生活様式」を踏まえた取組が求められている。3密の回避や適切な生活習慣による健康管理などを挙げると、家庭科教育の果たす役割は大きい。また、感染した人やワクチン接種を受けていない人への不当な差別を防ぎ、互いの人権を大切にしながら暮らしやすいまちづくりのためにも、本題材の意味は大きい。通常3学期に設定されている題材であるが、児童の実態を踏まえて、地域の人との関係をさらによりよいものにし、学校生活をより豊かにするために、本題材を2学期に取り扱うこととした。

○ 指導について

本校がコミュニティ・スクール実践校であることを生かし、地域の異なる世代の方の協力を得ることで、効果的な学習を展開できると考える。

第一次では、玉津地域のコミュニティについて知り、自分たちが安全で快適に生活するためには、地域住民一人一人の協力が必要であることに気付かせる。地域住民の思いを聞いたり、自ら地域の活動を調査したりすることを通して実生活を振り返り、実践の動機付けを行っていく。第二次では、「ぼくのわたしのちょこボラ」として自分たちの課題をもとに、今の自分たちにできることについて具体的な活動案を考える。第三次では、実際に活動したことについて実践報告を行う。保護者や地域住民にも報告を行い、コメントをもらったりやアドバイスを受けたりすることで、地域の一員として役に立っていることに自信を持たせ継続的な実践意欲につなげたい。

- (4) 指導と評価の計画 (全4時間)

第一次 家族や地域の一員として・・・1時間

第二次 私から地域につなげよう！広げよう！・・・2時間

第三次 もっとかがやく これからの私たち・・・1時間

	学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時	自分や家族が地域の人々とどのように関わっているのか考える。		家族や地域の人々とのよりよい関わりについて問題を見いだして課題を設定している。	
第2時	家族、地域の人々の話から自分の生活を見直し課題を設定する。			家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。
第3時 (本時)	地域の人のために自分にできることを考え計画を立てる。		家族や地域の人々とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。	
第4時	活動報告会を行い、実践について評価・改善をする。	家族や地域の人々とのよりよい関わりについて、実践を評価したり、改善したりしている。	家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて工夫し、実践しようとしている。	家族の一員として、家族や地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

(5) 本時の指導 (3/4)

ア ねらい 地域の人のために自分にできることを考えることで、家族や地域の人々とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫することができる。

イ 準備物 電子黒板、ワークシート、タブレット端末

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価
1 本時の学習のめあてを確認する。	○ 前回の学習で出た意見を振り返りましょう。 ・地域行事について知らなかった。 ・環境に配慮した生活ができなかった。 ・地域の人への挨拶が十分にできなかった。	○ 前時に挙げた課題を全体で共有し、いろいろな視点から地域や家庭をよりよくする工夫を考えることができるようにする。
	地域の一員として自分たちにできることは何だろう。	

<p>2 自分たちにできることについて班で意見交換をする。</p>	<p>○ 地域の一員としてどんなことができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でごみの分別を手伝いたい。 ・防災マップを地域の人へ届けたい。 ・ぐるぐる伝言板を使ってみたい。 <p>○ 自分の取り組みたい課題を設定し、実際に家で取り組んでみましょう。</p>	<p>○ ジャムボードを用いて班ごとにまとめさせる。その後全体で共有する。</p> <p>◎ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについてさまざまな解決方法を考え、工夫している。</p>
<p>3 次の活動への見通しを持つ。</p>	<p>○ 一ヶ月を実施期間として友達や家族、地域の方と協力して活動しましょう。</p>	<p>○ スクールタクトのレポートの形式を提示することで活動の見通しを持たせる。</p>

(6) 活動の実際

ア 児童の主体的な学びを促す問題解決的な学習指導の工夫

(7) 課題をつかむ

本題材では、地域生活をより豊かに、快適にするために自分にできることについて具体的に考え、実生活に結び付ける必要がある。そのために、まずは自分たちが普段、家族や地域の人とどのような場面でお世話になっているのかを具体的に考えることから始めた。地域の人とはどんな人のことを指すのかを具体的に提示することで、安全ボランティアや公民館行事でお世話になっている方、地域行事に携わっている方、スポーツチームのコーチなどが挙げた。しかし、自分たちが直接関わっていない人たちへの気付きまでには至らなかった。そこで、課題をつかむために三つの工夫をした。

一つ目は、写真を用いて、自分たちが知らない所で地域のために努力してくれている人たちへの気付きにつなげたことである。ごみステーションにごみが溜まっている写真と、きれいに清掃されている写真や、カラスよけネットがきれいに整えられている写真を見ることで、ごみ捨て場を掃除してくれている地域の方がいることの気付きにつながった。資源ごみを入れるキャリーは子どもたちも普段見慣れているが、実はそれらを決まった日に用意している地域の方がいた。また、ごみ当番の札や回覧板など、家庭でも見たことのあるものを提示することで、自分たちの家族も地域のために協力しているということが分かった。

二つ目は、家庭でのインタビューを行ったことである。身近な家族が地域のために取り組んでいることがもっとあるのではないかと疑問が湧き、実際に家族に聞いてみることになった。登下校の見守りや登校班のお世話、地区の行事の準備や運営、学校行事の手伝いなど、様々なところで自分たちや地域のために取り組んでいることが分かった。これまで気付かなかったことも含めて多くのことが分かり、今の自分にできることは協力したいという活動への意欲にもつながった。これらの手立てを通して児童が気付いたことは、タブレット端末を活用して意見を共有した。タブレット端末を用いることで児童は意欲的に取り組み、意見を共有できたことで考えを深め合うことができた（資料1）。

三つ目は、地域の方に実際に話を伺う時間を設けたことである。公民館主事さんと地域の自治会長さんから、普段行っていることや、地域の人や6年生への思いや願いなどについて話を聞くことができた。公民館主事さんや自治会長さんがどんなことをしているのか知らないという児童が多かったため、公民館や市と連携した道路の整備や防災活動、行事の運営など、多くのことに取り組んでいることを知ることができ、生活に根差した課題を設定するための効果的な導入になった（写真1）。

自分や家族は地域の方々
どんなことで関わっていますか

回覧板
登下校の見守り
運動会（テントの片付け）
地域の行事（いもたき、西条祭り、ラジオ体操、花火大会
クリスマス会、たきだし）
地区清掃
球技大会
ゴミ回収 分別
文化祭



〈資料1 タブレットにまとめた児童の画面〉

〈写真1 地域の方の話を聞く児童〉

(1) 活動内容のグループ化

課題が明確になったので、自分たちにできることを具体的に考えた。ここでも、児童同士の考えを広げ、深め合うことをねらいとして、タブレット端末を用いた活動を行った。

「Google Jamboard」を使ってグループごとに意見を集約し、児童同士が互いの意見を見合うことができるようにした。集まった意見を見返すと、ある程度共通した考えが挙がっていることが分かった。そこで、班で話し合い、活動案をグループ化して整理することにした。活動案をグループ化することで、二つの効果が期待された。

まず、同じ活動に留まらず、児童から挙げたたくさんの意見や課題を生かした様々な解決方法を計画することができることである。また、グループ化して整理した内容は、家庭科のこれまでの学習内容とも関連させることができることである。具体的には、B（6）「快適な住まい方」と関連させ、マナーを守った生活、地域清掃、防災活動など、家族や地域の人々と共に快適に生活するための工夫が考えられる。また、A（3）「家族や地域の人々と関わり」と関連させて、公民館や地域行事への参加を通じた地域の人との交流や伝統文化の継承など、異なる世代の人々との関わりを増やす工夫も考えられる。家庭科のこれまでの学習を振り返ったり生かしたりしながら本題材を進められることを想定して、実際に児童の意見をグループ化した。その結果、家族・家庭生活の内容に関する題材、住生活に関する題材、環境の内容に関する題材に分類ができた（資料2）。

地域の一員としてどんなことができるだろう。

黄色のふせんを使って意見を出そう！

1班

- 地域のたわちの助け合いをする
- 地域の人の関わりを増やす
- 自治会で、車の回りの清掃を良くしていく
- 地域の行事に積極的に参加する。
- 地域の行事に参加する。
- 地域の行事に参加する。

あいつをつける。

地域の人との関わりを増やしたい。

- ゴミステーションのすしのかついでい
- ゴミなどをあまみ、出さないようにする
- ゴミを分別する。
- ゴミは分別して出す。

地域の一員としてどんなことができるだろう。

黄色のふせんを使って意見を出そう！

2班

- なるべく地域の行事に参加する
- 中学生と小学生が関わるイベントを作る
- 地域の人の関わりを増やせるようにする
- お祭りなどに参加してたくさんの人と関わりをもたせるようにする
- 地域の行事などに参加する。

- 草刈り、草むしりなどの、奉仕活動を行う
- ゴミの分別をする
- ゴミ捨て場の清掃をする
- 地域に落ちているゴミを拾う
- ゴミ袋に記名する

地域の一員としてどんなことができるだろう。

黄色のふせんを使って意見を出そう！

3班

- ごみの分別に積極的に参加する
- ゴミを捨てるときは、ゴミ袋をしっかりと縛る
- ゴミを捨てるときは、ゴミ袋をしっかりと縛る
- 地域の清掃活動に参加する
- 地域に落ちているゴミを拾う

- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する

地域の一員としてどんなことができるだろう。

黄色のふせんを使って意見を出そう！

5班

- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する

- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する
- 地域の行事やイベントに参加する

〈資料2 Jamboard にまとめた各班の活動案〉

イ 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫

(7) タブレット端末を使ったレポートの作成

各班でグループ化したものを参考にして、学級で取り組みたい内容を「行事」「あいさつ」「ごみ問題」「地域とのつながり」「防災」の五つのテーマに絞り、約1ヶ月を目途に分担して活動に取り組んだ。タブレット端末は各自持ち帰り、活動の様子を撮影して記録した。活動の報告はタブレット端末を用いて行い、担任や友達同士で見ることができるようにした(資料3)。どのような活動をしたらよいか悩んでいる児童は、友達の実践を参考にすることができた。また、タブレット端末を家庭に持ち帰ることによって、家族にも自分たちがしていることについて伝えることができ、親子で考えながら一緒に取り組むことができた。

(4) 家庭・地域への活動報告

タブレットで作成したレポートを使って、学級で活動報告を行った。別のテーマで活動した友達の発表に関心を持つ児童も多く、様々な形で地域に協力できることを実感するとともに、今後も継続して行いたいという意欲的な思いを持つことができた(資料4)。また、参観日には一人一人の活動報告書を掲示し、保護者にも見ていただいた。家庭科で学んでいることを家庭とも共有することで、生活をよりよくしようとする実践的な態度につなげることができた。さらに、自分たちの取組を地域の方にも知ってほしいという児童の思いから、公民館へレポートを届け、活動の報告をするとともに、レポートの展示をお願いした。展示しているレポートを読んだ地域の方からも意見をいただくことができ、児童にとっては、今後の励みにもなった(資料5・6)。

・活動をしていると、自分が思っているよりもごみが落ちていてもっと地域について考えるようにしたいと思いました。他の人の活動内容を聞いていると、地域の人と交流したり、防災マップを作ったりしていました。自分にもできることはやっていきたいなと思いました。

・地域の人や家族のために、みんな一生懸命活動していました。一回だけで終わるのではなく、地域のために続けたいと思っているのがとてもいいなと思いました。みんなが取り組んでいることをみんなですていったら地域はとてもいいものになるんじゃないかなと思います。今日から少しずつみんなが取り組んだことを私もやってみようと思いました。

〈資料4 報告会を終えた児童の感想〉

僕の私のちょこっとボランティア

地域の行事に参加する



西条祭りの参加する。参加しながらゴミ拾いや、同じだんじりの人などとの関わりも深める。

西条祭りには楽しく参加できました。参加しながら通り道に落ちている、ビールやジュースの空き缶を拾ったり、自分のゴミも分別しながら捨てたりすることができました。また、自分がついているだんじりにいる人達とも話して、関わりを深めることができました。

僕の私のちょこっとボランティア

先取り挨拶大作戦



登下校の時や、普段道を歩いている時など、日頃から地域の人とすれ違ったときなどに自分から先取り挨拶をして、関わりを作り深める。

普段からすれ違った人に挨拶をすると関わりが深まったように感じました。このようなことが今回だけではなくずっと続けられるようにしていきたいです。

僕の私のちょこっとボランティア

ゴミなくなるまで終わらせん!!大作戦



方法 ゴミ拾いや引きをする。
場所 自分の家の周り1km未満
時刻 日曜日の朝方
時間 ゴミが無くなるまで

コンビニとか、あるところには、コンビニの廃品のごみが、落ちていました。車の中とか、人目のつかないところに、ごみがよく落ちていました。この活動を通して、たくさんの方がゴミを落とされているという現状を知り、これからはゴミ拾いを続けなければいけないと思いました。これからもゴミ拾いややっていきたいなと思いました。

僕の私のちょこっとボランティア

音楽学習発表会後のお楽しみ会に参加する



参加している友達とおしゃべりしたり、自分でできる楽しんでもらえることをする。

集会所・音楽学習発表会後のお昼のお楽しみ会・低学年達と話す

低学年の人たちとよく話して、あまり関わらない幼稚園生なども関わり幼稚園生の人たちと楽しく遊ぶことができたので良かったなと思いました。次のときはもっと積極的に大人の人達の準備などを手伝っていいなと思いました。これからも地区などの行事などなどにてできるだけ参加して、色々な大人の人達とも関わりを深めていけるといいなと思います。

僕の私のちょこっとボランティア

災害時の準備



親と避難経路の確認や非常持ち出し袋の点検、入れ替え、万全の状態にする。その他にも安否確認方法なども決めておく。

ハザードマップを見ると思っていたよりも危ないところがあることや、非常持ち出し袋や倉庫にある保存飲料や保存食品の中にも賞味期限が切れているものがたくさんありました。もしものためにいるものは、ちゃんと定期的に見ておくべきだと改めて感じました。

〈資料3 五つのテーマの活動報告書〉

いつも〇〇地区の美しい環境づくりに関心を持っていただき、感謝します。みんなの気持ちと活動の芽が、やがて地域を巻き込んで大きな花を咲かせるものと確信します。お祭りも含め、〇〇の魅力をもっともっと発見し、みんなに発信できたらいいな……。今後の皆様の活躍を楽しみにしています。

〈資料5 公民館長さんからのメッセージ〉

・みなさんの素敵な取組をこれからも続けて、〇〇地区の一員であることに誇りをもって頑張ってください。
・ボランティアよろしくお願いします。がんばれ!!
・地域のいろいろなところに目を配り、清掃活動、ありがとうございます。私たちも目標を新たに地域環境の美化に頑張れたらと思います。ありがとうございました。

〈資料6 報告書を読んだ地域の方からのメッセージ〉

3 成果と課題

- 家族や地域の方の具体的な話を聞いたり、自分たちの生活を振り返ったりすることで、家庭や地域がそこに住む人々の協力で成り立っていることを理解することができた。特に自治会長さんの思いや願いを聞くことで、「人と人とのつながりを深めて地域の関係をよりよくしたい」、「地域の人を楽しんでつながりあえる活動をしたい」など、主体的に活動に取り組もうとする気持ちを育むことができた。
- 普段地域行事に参加する機会がなかった児童が地域行事に関心を持ち、伝統文化の美しさや、それらを継承したい、地域の一員として生活をよりよくしていきたいという思いを持つことができた。
- 家庭でごみの分別をしたり親子でごみ拾いをしたり、学習したことが家庭生活に生かされており、生活をよりよくしていこうとする意欲につながったことは、家庭科学習の大きな成果である。
- タブレット端末を使ってレポート作成をすることで、家庭に持ち帰って実際の活動を撮影するなど、保護者も活動の内容を知ることができた。簡単に記録や編集をすることができるので、見る人が分かりやすいシートになるように自分たちで工夫し、活動のまとめまで主体的に取り組むことができた。友達の活動を見合って実践発表するなど学級で共有することができ、効果的な活動となった。
- 授業内で Jamboard を活用したことによってタブレットを操作することに集中してしまい、話合いを中心とした練り合いが十分にできなかった。タブレットを活用するにあたっては、自分たちの意見を分かりやすくまとめるためのツールとして使用し、深い学びを妨げないような適切な活用の仕方が必要である。
- 今回の実践は、一度限りの活動であった。そのため、家庭や地域の一員として継続的に取り組み、自分の生活の中に取り込んでいくまでには至っていない。
- 今回実践した内容は、どれも将来にわたってできることとして意義のある活動になり、喜びや達成感を味わうことができたが、地域の人と主体的に関わったり協力したりするために「日常的にできること」という視点から実践を振り返り、改善し、よりよく工夫していく必要がある。今後も学校と家庭、地域との連携を生かし、豊かな家庭生活を工夫することができる実践的な態度を育てる授業研究に努めたい。

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

—第6学年「こんだてを工夫して」の実践を通して—

今治・越智支部

1 研究の視点

対話的で深い学びにつながる指導方法の工夫

2 実践事例

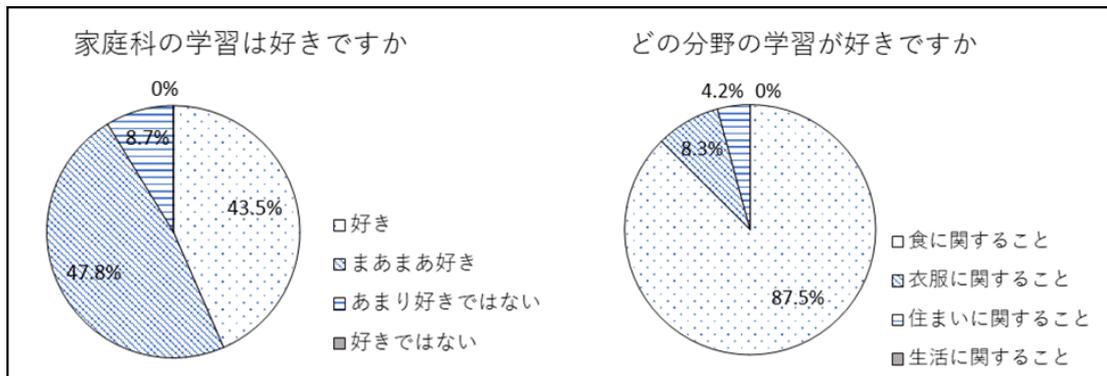
(1) 題材名 こんだてを工夫して

(2) 目標

- 献立を構成する要素が分かり、栄養を考えた1食分の献立作成の方法や調理の基礎について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- 1食分の献立について、栄養バランスを考え工夫することや、おいしく楽しく食べるために、日常の食事の仕方を考え工夫することについての問題を見だし、課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 栄養を考えた1食分の食事やおいしく楽しく食べるための調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活をよりよく工夫し実践しようとする。

(3) 題材設定の理由

- 本学級の児童26名（特別支援学級5名を含む）は、家庭科の学習に意欲的な児童が多く、「家庭科の学習は好きですか」という質問に対して、91%の児童が「好き・まあまあ好き」と答えている。特に、食に関する学習が好きな児童が多く、87%を超えている。



〈資料1 児童へのアンケート結果〉

1学期の「いためておかずを作ろう」では、短時間で簡単にできる朝食を考えたり、三色野菜いためとスクランブルエッグの調理実習を楽しく行ったりした。5年生の時は、新型コロナウイルス感染症の影響で、調理実習を実施できていない。そのため、調理経験の少ない児童が多いと思われる。「これからの家庭科の学習でできるようになりたいこと」を聞いてみると、「料理ができるようになりたい」「包丁を上手に使えるようになりたい」と答える児童が多かった。夏休みには「家庭でチャレンジ」という課題の下、学んだことを生かしておかず作りを実践する児童もいた。

しかし、普段の給食の様子を見ていると、苦手な野菜を減らす児童も少なくない。栄養のバランスに気を付けるということは学習し、理解しているものの、実生活には十分生かされていないと考えられる。

- 本題材は、新学習指導要領内容項目「B衣食住の生活」の(3)栄養を考えた食事ア(ウ)「献立を構成する要素、献立作成の方法」、イ「1食分の献立の工夫」を柱として設定している。食に関する2年間のまとめとして、①どのような料理や食品を組み合わせるとよいだろう、②1食分のこんだてを立てよう、③工夫して毎日の食生活に生かそう、の三つの小題材で構成されている。1食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立ができるようにすることをねらいとしている。これまでの学習で、調理の

基礎や、体に必要な栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特徴などを学習している。本題材では、それらを想起しながら1食分の献立を考えたり、楽しくおいしく食べるための食事の仕方や工夫を考えたりする。また、内容項目「C消費生活・環境」の(1)イ「身近な物の選び方・買い方」や、(2)イ「環境に配慮した物の使い方・買い方」とも関連させながら、実生活で活用できるようにする。

さらに、給食や家族のための献立を考えさせることで、日常の食事に関心を持ち、これからの食生活に主体的に関わっていこうとする態度を育てたり、家庭実践につなげたりすることができる。

- 題材全体を通して、「給食のこんだてを考えよう」という課題を設定する。まず、第1時では、栄養のバランスを整えた食事について栄養教諭から直接話を聞くようにする。その際、自分たちが考えた献立が実際の給食になることを知らせ、献立作りへの意欲を高めたい。第2、3時では、主食はご飯、汁物は味噌汁、身近な食材であるジャガイモを使うという条件を設定し、デジタル教材を活用して児童一人一人に給食の献立を考えさせる。そして、各自が考えた献立を伝え合い、最終的にグループで一つに決定させる。

第4時(本時)は、グループで選んだ献立を見直し、改善させる。前時までには、児童はどのような献立でどんな食材を使うか考えているので、それらの食材について、デジタル教材「給食の献立」を活用して、栄養バランスのチェックを行う。デジタル教材を活用することで、赤・黄・緑の三つの食品グループのバランスが一目で正確に分かるようにする。また、栄養教諭から給食の献立を考えるときのポイント「栄養のバランス・色どり・味付け・旬」などについて話してもらい、より専門的なアドバイスを基に献立の見直す点に気付かせる。話を聞いた後、より良い献立にするためにどうするか、シンキングツールを使って個人で考え、自分の思考を整理する。その後、グループでの話し合い活動の時間を設定する。根拠に基づいて話し合いをすることで、自分たちの献立がより良い献立になるよう考えさせたい。そして、改善したポイントを学級全体に伝えることで、自分たちの考えを明確にし、考えを深めることができるようにする。

第5時～第10時は、実際に自分たちが考えた献立を調理する計画を立て、実習をする。自分たちで調理方法を調べたり野菜の切り方を工夫したりすることで、食生活に主体的に関わっていこうとする態度を育てることができる。題材の最後には、自分の家族のための献立を考える。これまでの学習で学んだことを家庭で実践できるよう、工夫させたい。さらに、食事の大切さや楽しさを感じさせたり、望ましい栄養や食事のとり方に関する知識や技能を身に付けたりするなど、食育の視点も大切に指導していきたい。

*デジタル教材「給食の献立」出典：e-net(熊本市地域教育情報ネットワーク)
<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/>

(4) 指導と評価の計画(全11時間)

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1次 どのような料理や食品を組み合わせよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日の食事に関心を持ち、栄養のバランスを考えた食事のとり方について、主体的に課題を設定する。 ・ 給食の献立から気が付いたことや普段の食事で気を付けていることを話し合う。 ・ バランスの良い食事にするためには、料理や食品をどう組み合わせたらよいか栄養教諭から話を聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ① 1食分の献立の栄養のバランスについて、問題を見いだして課題を設定している。 ・ 行動観察 ・ 学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> ① 1食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・ 行動観察 ・ ポートフォリオ

第2次 1食分のこんだてを立てよう	2 3	○ 1食分の献立を構成する要素が分かり、献立作成の方法について理解する。 ・ なぜ、献立を立てるか考える。 ・ 給食の献立を立てるために必要なことを考える。	① 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立の作成の方法について理解している。 ・ 行動観察 ・ 学習カード	② 栄養バランスの良い1食分の献立について考え、工夫している。 ・ 学習カード	② 1食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・ 行動観察 ・ ポートフォリオ
	4 (本時)	○ 栄養バランスの良い1食分の献立について考え、課題解決する力を身に付ける。 ・ 作成した献立を基にグループで工夫の仕方や改善の仕方について話し合い、発表する。			
第3次 工夫して毎日の食生活に生かそう	5 6 7	○ おいしく食べる調理計画について問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を身に付ける。 ○ おいしく食べる調理計画について主体的に取り組もうとする。 ・ 目的に応じた調理の仕方や材料の切り方などを考え、環境に配慮した調理計画表を作成する。		② 1食分の献立や、おいしく食べるための調理計画及び調理の仕方、楽しく食べるための食事の仕方について考え、工夫している。 ・ 調理計画	③ 1食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について工夫し、実践しようとしている。 ・ 行動観察 ・ ポートフォリオ
	8	○ 身近な物の選び方、買い方について問題を見いだして、様々な解決方法を考え、課題を解決する力を身に付ける。 ・ 食品の選び方、買い方について調べる。	② 材料の選び方について理解している。 ・ 学習カード		
	9 10	○ 目的に応じた調理や調理の手順を理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ○ 材料に適したゆで方、いため方を理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ・ 調理実習をする。	③ 目的に応じた調理や調理の手順を理解し、適切にできる。 ・ 行動観察 ④ 材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに適切にできる。 ・ 行動観察	③ 1食分の献立やおいしく食べるための調理計画及び調理の仕方、楽しく食べるための食事の仕方について実践を評価したり、改善したりしている。 ・ 調理計画 ・ 実践記録表	
	11	○ 家族とともに楽しく食べるために、マナーや食事の仕方について考え、課題を解決する力を身に付ける。		④ 家族とともに楽しく食べるためのマナーや食卓など、食事の仕方に向けた計画を考え、工夫して表現している。 ・ 調理計画 ・ 実践記録表	

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族とともに楽しく食べるために、マナーや食事の仕方について、生活をより良くしようと工夫し実践する。 ・ 家族と楽しく食事をするために気を付けることについて話し合う。 ・ 家族のための1食分の献立を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ② 学んだことを生かし、家族のための実践に向けた計画を考え、工夫している。 ・ 調理計画 ・ 実践記録表 	
--	--	--	--	--

(5) 本時の指導 (4/11)

ア ねらい

献立作成のポイントを理解し、友達と関わり合いながら栄養バランスの良い給食の献立を考えることができる。

イ 準備

電子黒板、タブレット端末

ウ 展開

主な学習活動 (形態)	時間	主な発問と予想される児童の反応	○教師の支援 ◇評価
1 前時に考えた献立を確認する。 (一斉)	1	○ どんなことに気を付けて考えましたか。 ・ 栄養のバランス ・ みんなの好み	○ グループで決めた献立を見ながら、どんなことに気を付けて選んだか発表させる。
2 本時のめあてを知る。 (一斉)	1	考えたこんだてを、よりよいものにしよう。	
3 栄養のバランスを確かめる。 (小集団)	3	○ 栄養のバランスに偏りがいないか確認しましょう。	○ デジタル教材「給食の献立」を活用し、栄養のバランスをチェックさせる。 ○ ICTを活用し、正確に速くチェックできるようにする。
4 栄養教諭の話を聞き、見直しのポイントを知る。 (一斉)	5	○ 給食の先生からアドバイスをもらいましょう。 ・ 緑黄色野菜も使おう。 ・ 色どりにも気を付けよう。 ・ 味付けを見直そう。 ・ 旬の食材を使おう。	○ 不足している栄養素など、改善点に気付かせる。 ○ 栄養教諭から給食の献立を考えるときに気を付けていることを話してもらい、栄養のバランス以外にも見直しのポイントがあることに気付かせる。
5 献立の見直し、改善をする。 (個人) ↓ (小集団) ↓ (全体)	20	○ どうすれば、より良い献立になるか考えましょう。 ・ トマトを加えれば色どりがよくなる。 ・ 味噌汁にわかめを加えれば無機質が増える。	○ 一番大事なポイントは栄養のバランスであることを伝える。 ○ 見直しポイントを明確にして、献立を改善させる。

6	まとめと振り返りをする。 (一斉)	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合い、より良い献立になるよう見直しましょう。 ・○○さんの意見にあったように、色どりをよくするために○○を加えよう。 ・旬の食材を使いたいけど何かないかな。 <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見直した献立を紹介しましょう。 <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 始めに考えた献立と見直した献立を比べて、どんなことに気が付きましたか。 ・三つの食品グループに分けて見直すと、バランスの良い献立になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT (ロイロノート) のシンキングツールを活用し、自分の考えを根拠に基づいて発言できるようにする。 ○ グループで意見を出し合い、協力して見直すよう指示する。 ◇ 栄養バランスの良い1食分の献立について考え、工夫している。 <p>○ ICT (ロイロノート) を活用し、それぞれのグループの栄養チェック表を提出させ、他のグループの献立が分かるようにする。</p> <p>○ 見直したところや、改善したところを発表させ、全体で共有させる。</p> <p>○ 献立を見直して気が付いたことや分かったことなど、感想も含めて発表させる。</p>
---	----------------------	--	--

(6) 活動の実際

ア 課題設定

児童にとって、学級のみならず食べる給食は楽しみの一つである。給食の献立を考える活動を通して、献立作成のポイントや1食分の献立作成の方法を知り、自分の食生活への関心につなげるために、題材全体を通して、「給食のこんだてを考えよう」という課題を設定した。実際に、自分たちが考えた献立を調理する計画を立てて実習を行い、調理方法を調べたり野菜の切り方を工夫したりすることで、食生活に主体的に関わっていこうとする態度を育てることができると考えた。題材の最後には、これまでの学習で学んだことを家庭で実践できるように、自分の家族のための献立を考えさせるとともに、食事の大切さや望ましい栄養や食事のとり方に関する知識や技能を身に付けさせるなど、食育の視点も大切に指導を行った。

イ 栄養教諭との連携

題材の導入で栄養のバランスを整えた食事について、栄養教諭から話を聞く活動を取り入れた。その際、自分たちが考えた献立が実際の給食になることを知らせ、献立作りへの意欲を高めた。また、給食の献立を考えるときのポイント「栄養のバランス・色どり・味付け・旬」などについても話してもらい、より専門的なアドバイスを基に、献立を見直す点に気付かせた(写真1)。



〈写真1 栄養教諭からの話〉

ウ ICT機器の活用

(ア) デジタル教材

デジタル教材の「給食の献立」(資料2)を活用して児童一人一人に給食の献立を考えさせた。その際、主食はご飯、汁物は味噌汁、身近な食材であるじゃがいもを使うという条件を設定した。そして、各自が考えた献立を伝え合い、最終的にグループで一つに決定させた後に、グループで選んだ献立を見直し、改善させた。また、前時までに、決めていた献立の食材について、デジタル教材で栄養バランスのチェックを行わせた。デジタル教材を活用することで、児童は、赤・黄・緑の三つの食品グループのバランスを一目で正確に理解するとともに、栄養素の分類を短時間で行い、配置や食材をイメージがしやすかったと思われる。食材の多さも可視化でき、献立を考えるのに役立つ。

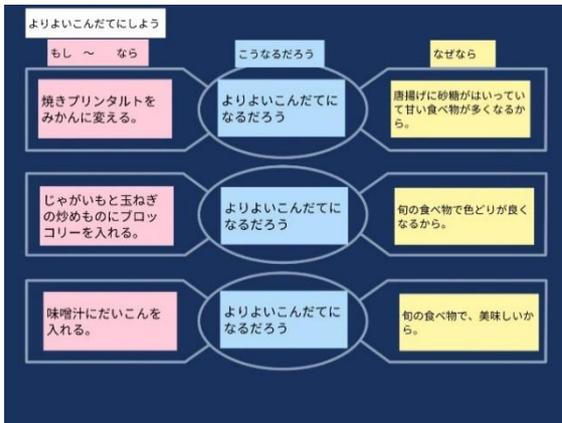


おもにエネルギーのもとになる食品		おもに体をつくるもとになる食品		おもに体の調子を整えるもとになる食品	
炭水化物を多く含む食品	脂質を多く含む食品	たんぱく質を多く含む食品	脂質を多く含む食品	ビタミンや無機質を多く含む食品	その他
米・パン・めん・いも など	油・バター・マヨネーズ	魚・肉・卵・豆類 など	牛乳・乳製品・油・マヨネーズ など	色の濃い野菜	その他の野菜・きのこ・海藻

〈資料2 デジタル教材「給食の献立」〉

(イ) シンキングツール

栄養教諭から話を聞いた後、より良い献立にするためにどうするか、シンキングツールを使って個人で考え、自分の思考を整理した。その後のグループでの話し合い活動の時間では、根拠に基づいて話し合いをすることで、献立がより良い献立になるよう考えさせた。シンキングツールの「キャンディーチャート」を使用することで、一人一人が根拠を基にした考えを持って、話し合いに臨むことができた(資料3、写真2)。



〈資料3 シンキングツール〉



〈写真2 話し合いの様子〉

3 成果と課題

献立の作成ポイントや1食分の献立作成方法を理解させて、栄養バランスの良い献立を考える場を設定したことで実践力の育成につながった。栄養教諭との連携や適切なICT機器の活用を効果的に取り入れた題材の指導計画を立てたことで、必要な情報を取捨選択・活用する能力が身に付いたため、健康面・安全面にも配慮した栄養バランスの良い食事をとることができた。自分が考えた献立を調理実習したことにより、家庭で実践しようとする意欲が高まり、実生活に生かすことができた。

家庭での実践に関しては、金銭的なことやアレルギー体質、味覚過敏などで調理実践をしにくい家庭があるので配慮が必要である。今後のICT機器の活用については、児童の実態に合わせ適切に取り入れていく必要がある。しかし、ICT機器に頼り過ぎると自分で考える力は身に付かないこともあるので、自力解決場面とICT機器の活用のバランスが課題である。

生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する児童の育成

—第6学年「生活を豊かにソーイング」の実践を通して—

松山支部

1 研究の視点

- (1) 主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫
- (2) 思考を可視化し、学習過程を評価できるワークシートや評価カードの工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「生活を豊かにソーイング」

- (2) 目標

- 製作に必要な材料や手順、製作計画、ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- 生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための袋の製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童は、家庭科の学習に意欲的に取り組み、家庭生活に必要な物を自分で作ることができるようになったり、家族を喜ばせたりすることに喜びを感じている。学んだことを素直に受け止め実行することができる児童が多い。しかし、科学的根拠を基によりよい活動の仕方を考えたり、自ら活動の仕方を工夫したりしようとする意欲が低い傾向がある。また、学習したことが定着しにくい児童がおり、製作に係る技能においては、個人差が大きい。布を使った製作については、5年生でランチョンマットを作っている。自分が作った物に愛着を持ち、給食の時間に活用している児童もいる。
- 本題材は、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題を持って、製作に必要な材料や手順、製作計画、手縫いやミシン縫い及び用具の安全な取扱いに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作計画を考え、製作を工夫することができるようにすることをねらいとしている。生活を豊かにするための布を用いた製作とは、身の回りの生活を快適にし、便利にしたり、楽しい雰囲気を作り出したりするなど、布の特徴を生かして自分や身近な人の生活を豊かにする物を製作することである。本題材では、自分の生活を豊かにするためのマイバッグを製作する。製作過程やできた製作物を使う中で、身近な人との関わりを深めたり、生活文化への関心を高めたりするとともに、生活に役立つことを実感して豊かな気持ちになることができるであろうと考える。

また、総合的な学習の時間との関連を図り、製作に使う布を選択する場を設けることで、国際理解や環境等の視点からも、よりよいものを選ぼうという気持ちを育てることができる。このことは、日頃から自分の生活を見直す視点を広げたり、物を大切に使うという気持ちを高めたりすることにつながるだろう。このような思いを持って製作に取り組ませることで、主体的に基礎的・基本的な知識や技能を習得したり、製作の仕方を工夫したりしようとする児童を育みたい。

- 指導に当たっては、児童が自分の思いを持ち、それを実現させるために、市販の教材を活用するだけでなく、材料や袋の形、作り方等を工夫できるように、自己決定の場を多く設定する。しかし、作る物は異なっても基礎的・基本的事項がしっかりと習得できるように、学習の見通しを持たせ、同じ進度で製作が進んでいくようにしたい。また、市販の教材を使用しない児童は、製作に時間が掛かると思われるので、自己決定の場にいくつかの選択肢を設定したり、活動を効率よく進めるための教具（製作見本等）の工夫をしたりする。製作のときには、同じ型の袋を作る児童で構成する班をつくり、自分たちでデジタル教科書を活用して調べたり、教え合ったりしながら学習を進めさせたい。さらに、ロイノートで作成したワークシートを活用するなどし、一人一人の進度やつまづきを把握して個に応じた指導の充実を図りたい。

(4) 指導と評価の計画

学習過程	時	学習課題・学習活動 ※ICTの活用	評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
みつめる	1	○ 自分の作りたい袋を考えよう ・布で作られた袋を観察し、特徴をまとめる。 ・使う目的に応じてどのような工夫があるか話し合う。 ※共有ノートを使って話し合う。	布の扱いやすさや、丈夫さなどの性質を考え、製作する物の目的や使い方に応じて適したものを選ぶ必要があることを理解している。	生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について問題を見だし課題を設定している。	
もとめる	2・3 (本時) ・4	○ 袋の製作計画を工夫しよう ・生活を快適、便利にするような袋を考える。 ・出し入れしやすい袋になるように、必要な布の大きさを考える。 ・目的に合った袋を作るための材料を選ぶ。 ・製作の手順を調べる。 ※デジタル教科書で手順を調べる。 ※ロイロノートで製作計画をまとめる。	製作に必要な材料や製作手順について理解している。 ゆとりや縫いしるの必要性を理解している。	生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について考え、工夫している。	生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。
広げる・深める	5 ・6 ・7 ・8 ・9	○ 袋を作ろう ・布を断つ。 ・しるしをつける。 ・わきをぬう。 ・出し入れ口をぬう。 ・ひもをつける。 ※デジタル教科書の動画で作り方を確認する。 ※ロイロノートで振り返りをする。	布の無駄のない使い方について理解し、裁断やしるしを付けることができる。 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について、実践を評価したり、改善したりしている。	
まとめる・振り返る	10	○ 製作を振り返ろう ・製作後に活用した結果を振り返る。 ・友達の活動を参考にして、これからの製作や製作した作品の活用に生かせることを考える。		生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。	生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について工夫し、実践しようとしている。

(5) 本時の指導

ア 目標

- 目的に合った袋を作るために必要な材料が分かり、適切に選ぶことができる。
- 生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について考え、工夫する。

イ 準備物

ワークシート（ロイロノート）、布やひもの見本

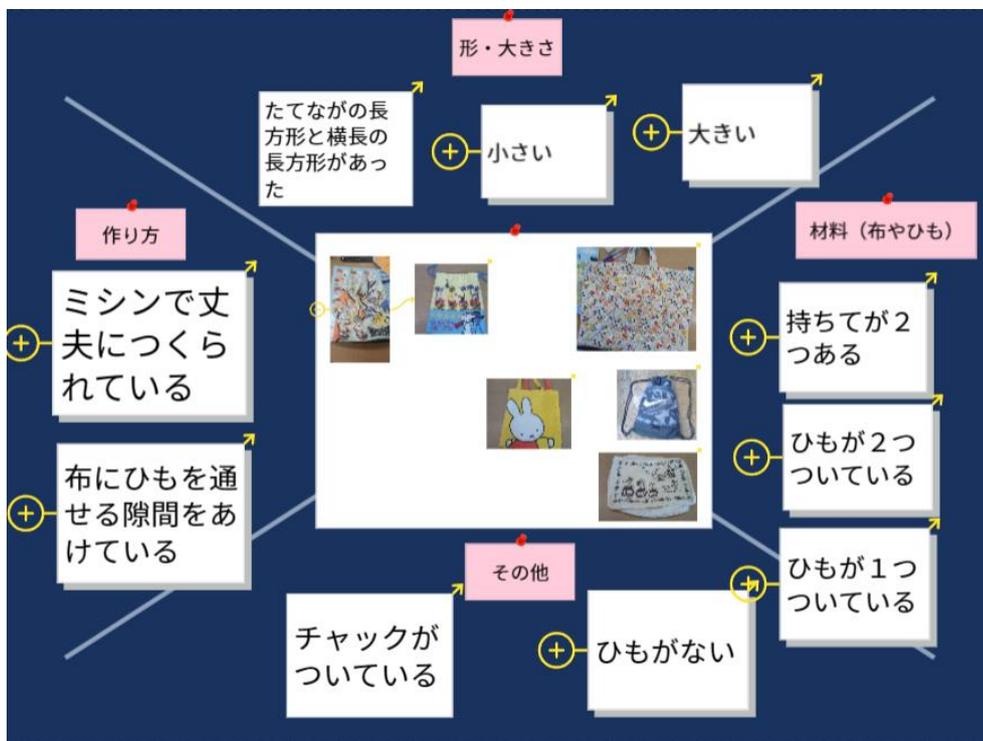
ウ 展開

学習活動	予想される児童の意識の流れ	指導上の留意点 ◎評価
<p>1 学習のめあてを確認する。</p> <p>2 目的に合った袋を作るために必要な材料を考える。</p> <p>(1) 個人</p> <p>(2) 班</p> <p>(3) 全体</p> <p>3 学習のまとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>目的に合った袋を作るためには、どのような材料を用意すればよいのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・布とひもを用意するとよい。 ・重い物を入れるから、じょうぶな布がいい。 ・小さい袋だから、薄い布でも大丈夫。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分が作りたい袋に適した布やひもを選ぼう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・制服のあまり布や家にある布を使うと環境に優しいね。 ・外国の人とのつながりを感じられる布を使いたいな。 ・市販のセットが作りたい物の大きさに合っている。布端の始末もできているので扱いやすい。 ・手提げ型なので平ひもが必要だ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分が選んだ材料が目的に合っているか、友達と確認し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケットや飾りをつけたいので、家から持ってきた布と組み合わせて作りたい。 ・重い物を入れるのならば、ひもも丈夫なものを選ぶといいね。 ・この袋を使うと楽しい気分になれるそうだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>入れるものや使い方、袋の大きさに合った材料を選ぶとよい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたい物によって、いろいろな工夫ができることが分かった。 ・早く作って使ってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見本の布やひもを見せる前に、どんな材料を使いたいと思っているのかを話し合う。 ○ 市販のセット、アフリカの布、制服の余り布を用意しておき、自分が作りたい袋に合っている物がどれかを選ぶことができるようにしておく。家庭にある布を活用することも認める。 ○ 総合的な学習の時間で学んだことを生かして考えることができるようにする。 ○ ワークシートに布とひもの選択肢を用意しておく。 ○ 布の厚さ、扱いやすさ、価格等、様々な観点から考えられるように助言する。 ◎ 生活を豊かにするための袋の製作計画や製作について考え、工夫しているか。 (ワークシート、発言) ○ 班での話合いでは、互いのよさを認め合ったり、悩んでいる点について相談したりできるようにする。班で解決できなかったことは、全体の場で考えるようにする。 ◎ 自分の目的に合った材料を選んでいるか。 (ワークシート) ○ 様々な工夫のよさを認め、製作への意欲を高める。

(6) 活動の実際

ア 主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

生活を見つめ、問題を見いだす場面では、ロイロノートの共有ノート（資料1）を活用し、児童が持参したいろいろな袋を観察・比較した。気付いたことをまとめていく中で、児童は、袋の特徴や袋作りに重要なポイントに気付くことができた。そして、目的に応じた自分が作りたい袋についてのイメージを膨らませていった。



〈資料1 袋を観察して気付いたことをまとめたロイロノート〉

製作の計画を立てる場面では、児童の思いを実現するために途中で計画を変えてもよいことを確認した。また、いろいろな形の袋、布やひもの見本、物差し、巻き尺等を用意して、実物を見ながら考える（写真1）ことができるようにすることで、自分の目的に合った袋づくりの具体的なイメージが持てるように配慮した。形や大きさ、必要な材料、手順と考えていく中では、「協力・協働」「快適・安全」「持続可能な社会の構築」等の見方考え方を意識させ、自分の目的に合った作りたい袋になるよう計画を立てさせた。例えば、使っていても汚れが目立たないように濃い色の布で作ろうと考えたり、肩に掛けて持ち歩けるようにひもの長さを長くしようと考えたりするなど、使うときのことを考えて計画を立てることができた。また、事前に製作に使える時間を設定していたことで、始めはファスナーや裏地を付けたいと言っていた児童も、見通しを持ち、時間内で作ることができる計画に変更するなど、実現可能な計画を立てることができた。



〈写真1 材料の見本〉

さらに、児童の主体的な学びや消費者教育につながるよう、他教科との関連を図った。総合的な学習の時間「これからの自分さがし～世界を見つめて～」の中で学んだSDGsの視点を取り入れたアフリカの布や企業が提供している制服残布を、今回の家庭科の学習の中でも扱えるようにした。製作の難しさから市販のセットを選んだ児童が多かったが、ポケットに制服の残布やアフリカの布を使う児童もいた。製作の仕方だけでなく、消費者教育の視点から、材料選びの際の値段についても考えることができた。

袋を製作する場面では、袋の形によるグループ作りを行うことで、児童の対話や教え合うことによる技能面での定着を目指した。手提げ袋を作るグループ、ナップザックを作るグループ、市販のセット以外の布を使うグループなど、作る物に応じたグループで互いに教え合いながら活動し、互いに学び合う姿が見られた。また、布を裁つときには、セットを使わないグループを中心に指導したり、出し入れ口を縫うときには、ナップザックのグループを中心に指導したりした。このことで、児童の抵抗感を少なくするとともに、教師が一人でも、適切な場面で個に応じた指導が可能になるよう努めた。学級のほとんどの児童は、予定していた5時間で作品（写真2～5）を仕上げることができた。

市販のセットを活用すると、製作が苦手な児童もきれいに作れた。



〈写真2 ナップザック〉

アフリカの布を購入して国際支援に貢献した。



〈写真3 そろばんを入れる袋〉

企業に提供してもらった制服の残布を使って、環境にもお財布にもやさしい袋を作った。



〈写真4 手提げ袋1〉

レースやアップリケを付けて、自分らしくアレンジして製作した。



〈写真5 手提げ袋2〉

イ 思考を可視化し、学習過程を評価できるワークシートや評価カードの工夫

ワークシート（資料2～4）はロイロノートで作成し、毎時間、資料箱に提出するようにした。提出箱を共有することで、児童は友達のワークシートを参考にして自分の計画を見直したり、アドバイスをしたりすることができた。また、教師も、前時のワークシートから個別の指導が必要な児童を確認し、指導に生かすことができた。例えば、布の大きさについてイメージができてくれない児童に、模造紙で実際の大きさを作って見せたり、製作が遅れている児童に、次の手順の見本を用意したりして、個別の指導を行うことで、指導と評価の一体化につながった。

<p>製作計画書</p> <ol style="list-style-type: none"> ふくろを縫製する 形や大きさを決める 手作り方を調べる 材料の準備をする 製作する（5時間） 振り返る <p>中に入れるもの 小さいぬいぐるみ8個</p> <p>作りたい袋（絵をかき、写真をはる）</p>	<p>必要な布の大きさ</p>	<p>たて25cm よこ35cm</p> <p>布の大きさの決め方</p> <p>【たて】 25 cm × 2 + 12cm (ぬいしろ) 62 cm</p> <p>【よこ】 35 cm + 4 cm (ぬいしろ) 39 cm</p>	<p>材料・用具</p> <p>布 セットを購入</p> <p>選んだ理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 重い物を入れるから厚めのある布を選びました。 破れにくいから。 <p>【用具】 裁縫道具 ミシン</p> <p>【ひも】 平ひも 60 cm 2本</p> <p>【その他】 ・薄い布を用意する。 (縦17cm・横14cm) × 2</p>
---	------------------------	---	--

〈資料2 計画を立てるときのワークシート〉

製作の手順はみんな同じにすることで進度をそろえた。みんなと違うところは色の異なるカードで付け足すようにした。この児童は、ポケットのカードを付け足している。

作り方の順序	ふりかえり
形や大きさを決める	11月4日 自分に合った大きさが決められた。
布を裁つ	月 日
ぬうしるしをつける	11月24日 濃いめに印をつけてずれないようにていねいにした。
わきをぬう	12月1日 ずれないようにミシンの使い方を振り返りながらぬった。
ポケットをつくる(内) →はさんでぬう	12月1日 自分のオリジナルのポケットをつくった。
出し入れ口をぬう	12月8日 一番難しかったけどやりやすく出来るように裏返す工夫をした。
ひもをつける	12月15日 長さや持ちやすさを意識してぬった。できあがりはぴったりになった。

市販のセットを購入した児童は、布が裁断されているので、布を裁つところの評価をしていない。

〈資料3 製作中の評価カード〉

家庭科の見方・考え方の視点から振り返ることができるようにした。

製作・活用報告書



【大きさやデザイン】
スマイルでかわいくてちょうどよい大きさになりました。

【布地などの材料】
厚みがあって重いものも入れられるようにしました。

【ぬい方】
やりやすいぬい方を見つけて布をぬいました。

【使ってみてよかったこと】
布が厚くて丈夫な手さげになりました。重いものを入れても破れず、じょうぶになりました。

【さらに工夫したこと】
内側にポケットを付けて小物などを入れるスペースを作りました。

協力

安全

便利

環境

事前に振り返りの視点を決めておくことで、具体的に振り返ることができた。

〈資料4 報告書〉

3 成果と課題

(1) 主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

材料や袋の形、大きさなど、児童の思いに合った物を製作することができるようにしたことで、児童は自分の思いを持って、意欲的に活動を進めることができた。また、必要な布の大きさや縫いしろの必要性などの基礎的・基本的事項を実感を伴って理解することができた。しかし、児童の意思決定の場を増やせば増やすほど、それに対応した具体物の用意や個別の指導が必要になる。授業の時間は限られているので、児童の思いをどこまで取り入れるのがよいか、検討する必要がある。保護者ボランティアを募集するなど指導体制を充実させ、個に応じた指導を行うための手立てを工夫するとよい。

(2) 思考を可視化し、学習過程を評価できるワークシートや評価カードの工夫

ワークシートをロイロノートで作成したことにより、個々の考えを共有することができ、児童は友達のことを参考にしながら自分の活動を計画したり振り返ったりすることができた。教師は、個に応じた指導に生かすことができた。しかし、製作に時間が掛かり、振り返りをする時間を確保することが難しいことがあった。時間の確保や振り返りの共有の仕方について、今後も考えていきたい。

日常生活に必要な知識・技能を身に付け、課題を解決する力を養う学習指導の在り方

－第6学年「こんだてを工夫して」の実践を通して－

伊予支部

1 研究の視点

主体的・対話的で深い学びの充実を図る学習指導の工夫

2 実践事例

(1) 題材名 「こんだてを工夫して」

(2) 目標

- 献立を構成する要素が分かり、栄養を考えた1食分の献立作成の方法や調理の基礎について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 1食分の献立について栄養バランスを考えて工夫することや、おいしく楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え工夫することについて問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を養う。
- 栄養を考えた1食分の食事やおいしく食べるための調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活をよりよく工夫し実践的な態度を養う。

(3) 題材設定の理由

- 本学級は、毎日の給食を楽しみにしており、休み時間には献立表を見て会話をしている児童が多い。しかし、会話の内容は「今日はカレーが出るから楽しみだ。」「明日のミニトマトは苦手だ。」などと、料理や食材の好みの話に偏っており、食事の役割や栄養のバランスに関する話は、ほとんどない。

本学級における食のアンケート「好き嫌いなく食べているか。」の項目では、「そう思う。」と答えた児童は13%しかいなかった。しかし、「健康的な食生活が送れているか。」の項目で、59%の児童が「そう思う。」と答えた。このことから、栄養を考えた食事をとることの大切さを十分に理解していないことがうかがえる。また、「食生活をよりよくするためには、どうすればいいか。」という質問に対しては、「よく噛んで食べるようにする。」や「家族とコミュニケーションを取る。」などの回答が多く、また、無回答の児童もいた。このことから、食事内容における課題を自覚しておらず、献立について問題点を見いだすまでには至っていないことが分かった。

- 本題材は、家族のために栄養バランスのとれた1食分の献立を考えて調理を行うという学習である。ここでは、献立を構成する要素として主食、主菜、副菜があることが分かり、1食分の献立作成の方法について理解できるようにする。その際、栄養教諭と協力し、献立作成のポイントを押さえることで、より効果的に知識の定着を図ることができると考える。そして、主食、主菜、副菜の組み合わせにより、栄養のバランスがよくなることに気付き、組み合わせを工夫しながら1食分の献立を作ることができることをねらいとしている。また、栄養面だけでなく、既習のゆでる・いためる調理を生かしたり、旬の食材や好みを取り入れたりして、自分なりに工夫することもできる。さらに、この題材で学んだことを家庭で実践・報告させることで、自分と家族の食事に関心をもち、これからの食生活に主体的に関わっていこうとする態度を身に付けることができると考える。

- 指導に当たっては、学習を「見付ける・気付く」「分かる・できる」「生かす」「深める」の過程に分ける。「見付ける・気付く」過程では、導入で事前アンケートの結果を提示し、栄養を考えて食事をとることの大切さを十分に理解できていないことを実感させる。また、既習事項である調理の基礎や栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特徴と組合せなどについて振り返り、「家族のために栄養バランスのとれた1食分の献立を工夫し、実践する」という題材を貫く課題意識をもたせることで、主体的に学習に取り組めるようにする。

「分かる・できる」過程では、栄養バランスを考えた、米飯とみそしるを中心にした1食分の献立を立てる。その際、主食、おかず（主菜・副菜）、汁物の順番で考えることや、日本の伝統である一汁三菜について知らせ、1食分の献立を立てられるようにする。本時では、前時に立てた献立の栄養バランスに偏りがないかを調べ、修正する。ワークシートを活用して五大栄養素に分けることで、栄養バランスについて視覚的に見直せるようにする。また、旬や色どり、味のバランスなどの視点を示し、多面的に考えられるようにする。そして、修正点や工夫したところをグ

ループ内で伝え合う時間を設け、友達との交流を通してさらに修正する場合は朱書きし、考えを深められるようにしたい。その後、これまでに学習した「ゆでる・いためる」調理が活かせるじゃがいもを使って調理させる。ゆで方や切り方のポイント、手順などをいつでも動画で確認できるようにしておくことで、知識及び技能の確かな定着を図る。そして、工夫したおかず作りへの意欲をもたせたい。

「生かす」過程では、学習してきたことをもとに、家族のために1食分の献立を考えさせる。必要な材料とその分量、買い方、環境に配慮した計画を立てられるようにする。また、家族と楽しく食事をするために食事マナーや配膳・盛り付け方などにも目を向けさせる。そして、家庭で実践を行い、ワークシートに感想や保護者からのコメントなどを記入することで、家庭との連携を図り、今後も自分の生活に生かそうとする気持ちを高めさせたい。

「深める」過程では、発展として給食の献立を考える。栄養バランスを考えることを基本として、新たに地産地消や食品数（15品目以上）などの視点を加え、テーマに合った給食献立を立てられるようにする。グループで作成した献立のよさや工夫したところをプレゼンテーションし、学級代表の献立を決める。最終的に学年で給食総選挙を行い、選ばれた献立が実際に給食のメニューとして出されるようにすることで、学習の成果を実感させるようにしたい。

(4) 指導と評価の計画

過程	時	学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見 気 付 け く ・ 分 か る ・ で き る	1	○ 事前アンケートから問題を見だし、本題材の学習課題を立てる。		○ 栄養を考えた食事のとり方について問題を見だし、課題を設定している。(ワークシート)	○ 栄養を考えた食事のとり方について主体的に取り組もうとしている。(発言・ワークシート)
	2	○ 献立の立て方について考え、米飯・みそ汁に合う主菜、副菜を考える。	○ 1食分の献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法を理解している。(発表・観察・ワークシート)	○ 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考え、工夫している。(観察・ワークシート)	
	3 (本時)	○ 栄養バランスに偏りがないように修正する。		○ 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立について、実践を評価したり、改善したりしている。(ワークシート)	○ 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(観察・ワークシート)
	4	○ 調理計画を立てる。	○ 必要な材料の分量や手順が分かり、手際よく調理を進めるための調理計画を理解している。(観察・ワークシート)		
	5 ・ 6	○ 調理計画に基づき、調理実習をする。	○ 目的に応じた切り方や手順で理解しているとともに、適切に調理できる。(観察)		

生かす	7	○ 家庭で実践するための計画を立てる。		○ 実践したことをもとに、家族のための1食分の調理計画を考え工夫している。 (ワークシート)	○ 栄養を考えた1食分の献立や楽しい食事について工夫し、実践しようとしている。(観察・ワークシート)
	8	○ 家族と楽しく食べるための工夫について話し合う。		○ 家族と共に楽しく食べるためのマナーや食卓の工夫について、課題を設定して表現している。(ワークシート)	
深める	9	○ 自分で献立作成のポイントを理解し、給食の献立を考える。	○ 五大栄養素の働きを理解し、給食の献立づくりに生かしている。(観察・ワークシート)	○ テーマに合った給食の献立について、課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(観察・ワークシート)	
	10	○ グループで給食の献立を考える。			
	11	○ プレゼンテーションをして、学級代表の献立を決める。			

(5) 本時の指導

ア 目標 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立について考え工夫することができる。

イ 準備物 タブレット、ワークシート、掲示資料

ウ 展開

学習活動	時間(分)	○主な発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価(評価方法)
1 本時のめあてを確認する。	3	○ 前時はどんなことを学習しましたか。 ・ 主食、主菜、副菜、汁物がある。 ・ その順番に献立を考えたらいい。 ・ 一汁三菜ということ。	○ 掲示物やICTを活用して献立の構成要素や作成方法について視覚的に確認できるようにする。
栄養バランスのよい1食分のこんだてを見直そう。			
2 前時に立てた献立の栄養バランスを確認する。	15	○ 前の時間に立てた献立の栄養バランスを確認しよう。 ・ 無機質が足りていない。 ・ 炭水化物が多くなっている。 ・ 食品数が少ない。	○ 机間指導の際、栄養教諭と協力し、教科書やタブレットを活用させることで、食材を五大栄養素に正しく分類させる。
3 献立を修正する。	10	○ 栄養バランスに偏りがないように修正しよう。 ・ 無機質を補えるようにみそ汁の実を増やそう。 ・ 炭水化物が多くなっているのを、主菜を別のおかずに変えよう。 ・ 食品数が少ないので、食品を加えよう。	○ 栄養教諭が三つのポイント(味、食品数、旬)を伝え、献立や食材の修正に役立てられるようにする。 ○ 修正後も、栄養バランスが整っているか確認させる。

4 修正した点について交流する。	10	○ 工夫した点や修正した点について話し合おう。 ・ 栄養バランスだけでなく、好みの味になるように考えた。 ・ 旬な食材を入れて栄養バランスを整えた。 ・ 友達は色どりにも気を付けていたから、自分も考え直してみよう。	○ 友達と話し合ったことをワークシートに記入させることで、自分の学びの深まりが実感できるようにする。
5 本時のまとめをする。	2	五大栄養素に分け、三つのポイント（味、食品数、旬）をもとに栄養バランスを整えればよい。	
6 本時の振り返りをする。	5	○ 学習の振り返りをしましょう。 ・ 栄養バランスのよい献立を考えることができた。 ・ 献立の工夫の仕方が分かった。	◎ 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立について、実践を評価したり、改善したりしている。（ワークシート）【思・判・表】

(6) 活動の実際

ア 主体的な学びを充実させる工夫

生活の課題発見の場において、既習の知識及び技能や生活体験をもとに自分の生活を見つめる場面を設定した。第1時を「見付ける・気付く」とし、日常生活の中から課題を設定できるように、多様な質問項目のワークシートを活用して他の内容項目との関連を図るようにした〈資料1〉。その後、全体での交流の時間を確保し、自分ができるようになったことを称揚した。児童は自己の成長を実感していた。その後、事前アンケートの結果をグラフで提示した。「好き嫌いなく食べているか。」の質問に対して学級の37%の児童が否定的な回答をしている一方で、「食生活は健康的だ。」という質問に対して学級の97%の児童が肯定的な回答をしていた、という結果に児童は驚いており、栄養バランスを課題に位置付けることができた。本題材を貫く課題を「家族のために栄養バランスのとれた1食分の献立を工夫して作ろう」として設定したが、「家族のために」という目的意識をもたせるには不十分だったように感じる。どのような手立てを講じるか検討する必要がある。

また、題材を通して、課題に沿った振り返りをし、次時の課題へとつなげたことで、学習が進んでいく度に児童の意欲が高まっていることを実感できた。「振り返りで新たな課題を見付けることで、進んで学習に取り組むことができたか。」という質問に対して、約94%の児童が肯定的に答えていたことから、実践した過程や結果から、新たな課題について考えるための振り返りの場を毎時間設定することは、主体的な学びを充実させることに効果的であると感じた。

こんだてを工夫して ～見付ける・気付く～

6年 / 組 番 名 前

1. 食事をするために、自分ができるようになったことはどのようなことですか。

食品買うときに気をつけたこと
もやしは、空気のあまり入っていないものを取る。

食べ物・栄養について
同じ物は、はかりを 使 べない。

猫の手でできた。

調理したもの
・カレー
・チャーハン
・チーズ・ホットケーキ
・オムライス・ケーキ

買い物



調理の手伝い



食事の準備やかたづけ
はしを右向きにおく
食べ終わった後、台所にもっていき、洗う。
台ふきをする。

配膳



こんろを使う経験
火がつかないから、た
らすぐけし、もう一度
つけ直す。

2. 食事の仕方についてふり返ってみよう。 3. この題材の課題を書きましょう。

おちゃわんを持って食べている。

・五大栄養素をバランスよく食べる。

4. 本時のまとめ これから学習していきたいこと

どうしたら栄養バランスの良い食事になるのか
考えて、給食より、バランスの良い食事にした。

〈資料1〉多様な質問項目のワークシート

イ 対話的な学びを充実させる工夫

よりよい課題解決方法を判断・決定できるように、他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりできるような場面を設定した。話し合いの視点を明確にすることと、他者の考えに対して自分の考えを伝えられるようにすることを意識して指導した。第2時の米飯とみそ汁に合う主菜、副菜を考える学習では、「献立を立てるときに気を付けたこと」を話し合いの視点として黒板に提示し、フリートークで考えを交流するようにした。フリートークを行ったことで、他者の多様な意見に触れることができ、考えを広げることができたと考える。第3時の栄養バランスに偏りがないように修正する学習では、「修正する際に工夫したところ」を話し合いの視点とし、グループで考えを交流するようにした。ワークシートに記入させてから話し合いを行ったことで、児童は自信をもって考えを他者に伝えることができていた。また、ワークシートに友達の意見を記入する欄を設けたことで、他者の意見にしっかりと耳を傾けることができていた〈資料2〉。しかし、〈資料2 友達の意見を記入することのできるワークシート〉

話し合いの時間の確保が十分でなかったため、考えを伝え合うだけの活動となってしまった。質問をしたりアドバイスをしたりするなどの、双方向のやりとりができるようにする必要があった。また、栄養バランスや三つのポイント（味、食品数、旬）が押さえられているかどうか確認するチェックシートがあれば、より話し合いが深まっていたのではないかと考える。

ウ 深い学びを充実させる工夫

知識及び技能の定着を図ることができるよう、ICTを活用した。第3時の栄養バランスに偏りがないように修正する学習では、学習の見通しがもてるように、教師がプレゼンテーションソフトを活用してワークシートの活用方法を説明した。児童は、主菜や副菜を変えたりみそ汁の実を加えたりして栄養バランスを整えればよいことを理解することができた。第4時の実習の計画を立てる学習では、じゃがいもの皮のむき方とジャーマンポテトの作り方の動画をテレビで見せた。そして、第5・6時の調理実習を行う学習では、前時に見せた動画を一人一台のタブレット端末で見ることができるようにした。児童は実習前や実習中に自由にタブレット端末を活用して動画を見て、作り方を確認してから自信をもって活動に取り組んだ。「タブレット端末を使って動画を見てから実習をしたことは効果的だったか。」の質問では、約97%の児童が肯定的な回答をしていた。第9・10時の給食の献立を考える学習では、タブレット端末を活用して表計算ソフトのワークシートに記入させた〈資料3〉。シート①は、「献立を立てるポイント」「献立のテーマ」「献立名」「アピールポイント」を記入できるようにした。給食の料理の写真をワークシートの右側に載せ、ドラッグして左側の配膳図にもってこることができるようにしたことで、色どりや組み合わせに気を付けて献立を考えることができた。また、シート②は、献立の料理名をプルダウンで選択すると、その料理に使われている食品が自動的に表示される仕組みにした。効率化を図ることができたとともに、自力で五大栄養素に分類させることで、知識の習得につなげることができた。

こんだてを工夫して ~分かる・できる~

6年1組 番号前

めあて 栄養バランスのよい自分のこんだてを見直そう。

1、前の時間に立てたこんだての栄養バランスを見直し、修正しよう。

■栄養のバランスチェック(空らんにおかずや使用する食品名を記入しよう。)

食品のグループ	主にエネルギーのもとになる食品	主に体を作るもとになる食品	主に体の調子を整えるもとになる食品
こんだて	米・パン・めん類・いも類・さとうなど	油・バター・魚・肉・卵・豆・小魚・牛乳・乳製品・海苔など	野菜・果物・きのこなど
主食	米		
しる物		みそ	わかめ にはし
前 の 主 菜	はちみつ	ぶり	けんじん
後 の 主 菜	じゃがいも	ミソ汁	けんじん、さけいけん、 ぶあさ
前 の 副 菜	じゃがいも	マヨネーズ	たまご
後 の 副 菜		ごま ごま油	玉ねぎ、さやうり にんじゆ
多くふくまれる 栄養素	炭水化物	脂質	たんぱく質
			無機質 (カルシウムなど)
			ビタミン・無機質

2、修正する際に工夫したところを書こう。

五大栄養素がすべて入るようになった。
なるべく食品数が多いのにした。

(友達の見え)
五大栄養素を入れ、みそ汁が
好きだから。

3、学習のまとめをしよう。

五大栄養素に分けて3つのポイントと
もとの栄養バランスを整えよう。

4、学習のふり返りをしよう。

3つのポイントを意識するだけで、ハン
ズか整ったこんだてにすることが
できました。

①

1食分の献立を考えよう

献立をたてるポイントの

献立のテーマ
栄養たっぷり、塩分量減量

献立名
夏野菜たっぷりご飯

食材のリスト

ポイント

栄養バランスを考慮して、塩分量減量のために昆布やわかめ、きゅうり、きくらげ、だいこんなどの食材を入れました。また、菊のたんぱく質、昆布を入れました。さらに、ビタミンを多くし、体に優しい献立にしました。

料理名	食品名	おもにエネルギーのもとになる食品		おもに体をつくるもとになる食品		その他(健康増進に役立つ食品)
		炭水化物	脂質	たんぱく質	無塩質	
黄	米	○				
	塩辛	○				
	とり肉			○		
	きゅうり					○
赤	ほも			○		
	しらすほし			○		
	おから			○		
	にんじん					○
	たまねぎ					○
	きくらげ					○
	しょうが		○			
	なまこ			○		
	小豆粉	○				
	油		○			
緑	きゅうり					○
	わかめ	○				
	ごま油		○			
白	昆布					○
	ごま油		○			
	ごま油		○			
	ごま油		○			
	ごま油		○			
	ごま油		○			
青	鶏肉			○		
	ごま油	○				
	ごま油					○
	ごま油					○
紫	ごま油					○
	ごま油					○
牛乳	牛乳				○	

〈資料3 表計算ソフトのワークシート①・②〉

また、学校と家庭生活のつながりを重視して、家庭との連携を図るようにした。第7時の学習では、題材を貫く課題である「家族のために栄養バランスのとれた1食分の献立を工夫して作る」に立ち返り、家族のために作る、米飯とみそ汁を中心として1食分の献立を考えることとした。その際、「誰へ、どんな」献立を立てるのか明記させて、目的意識をもって取り組めるようにしたことで、家族を思ってテーマを考えさせることができた。その後、個人懇談で保護者一人一人に本題材で学習してきたことを説明し、家庭で献立をもとに料理してもらうことをお願いした。どの保護者も快く受け入れてくださり、「家庭でも、料理の栄養バランスについて話をするようになりました。」「料理に興味をもつようになり、一緒に作ってくれることが増えました。」などと、学習が家庭でも生かされている話を聞くこともできた。実践後のワークシートの保護者コメントでは、「うれしかったよ。」「ありがとう。」といった喜びや感謝のものから、よかったところを具体的に褒めているもの、こうすればもっとよくなるというアドバイスなどがあつた。児童は、自分で献立を考えて実際に作ったことに達成感を味わい、今後も作ってみたいという意欲を高めていた。また、日頃、保護者が料理を作ってくれることの大変さやありがたさも実感していた。

3 成果と課題

主体的な学びを充実させる工夫として、生活の課題発見の場において、既習の知識及び技能や生活体験をもとに自分の生活を見つめる場面を設定することで、児童が自己の成長や課題を実感することができ、題材を通した主体的な学びへとつなげることができた。しかし、「家族のために」という目的意識をもたせることは不十分だったため、日頃調理をしている家族の方の感想やメッセージを題材始めに紹介して関心や意欲を高めさせるなどの手立てを講じる必要がある。

対話的な学びを充実させる工夫として、話し合いの視点を黒板に提示したりワークシートに記入したりして明確にしたことで、児童全員が視点を理解して話し合うことができ、対話的な学びを充実させることができた。さらに対話的な学びの質を深めていくには、十分な時間の確保と、双方向のやり取りが促進される手立てが必要である。

深い学びを充実させる工夫として、動画を一人一台端末でいつでも見ることができるようにしたことで、やり方を確認してから自信をもって活動に取り組むことができた。また、栄養教諭が専門知識を生かして献立作成のポイントを押さえることで、より効果的に知識の定着を図ることができ、机間指導や評価もよりきめ細やかに行うことができた。そして、家庭との連携を図ることで、自分で献立を考えて実際に作ったことに達成感を味わい、今後も作ってみたいという意欲を高めることができた。日頃保護者が料理を作ってくれることの大変さやありがたさも実感させることができた。

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

—第5学年「食べて元気に」の実践を通して—

大洲支部

1 研究の視点

- (1) できる・分かる・考え実行する授業づくり
- (2) 子供の主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「食べて元気に」
- (2) 目標

- 食事の役割と食事の大切さ、日本の伝統的な配膳の仕方、米飯とみそ汁の調理の仕方、栄養素とその働きについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- おいしく食べるために日常の食事の仕方、米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして解決する力を身に付ける。
- 食事の役割、栄養バランスを考えた食品の組み合わせ方、伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理の仕方について、課題解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し、実践しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本学級の児童（21名）は、明るく元気で、家庭科の学習にも楽しみながら参加している。授業中進んで発表するなど意欲が高い児童も多い。一方、家庭で食事を作ったり、針や糸を使ったりした経験を持つ児童は少なく、家庭科の学習で初めて経験するという児童もいる。この調理や裁縫などの経験や知識が少ないという実態から、これまで具体物を活用したり、他教科との関連を図ったりしながら、基本的な技能の習得ができるよう努めてきた。1学期には、「ゆでる」という加熱調理において調理の基礎的・基本的な技能を身に付けている。本時で扱うみそ汁は、給食でよく食べており、児童にとっては馴染みの深い料理である。みそ汁についてアンケートを採ったところ次のような結果となった。

「みそ汁が好き」と答えた児童・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・90%

「みそ汁を毎日食べている」と答えた児童・・・・・・・・・・・・・・・・20%

「だしについて知っている」との問いに「知らない」と答えた児童・・・・90%

この結果より、日本の伝統的な日常食であるみそ汁は好きだが、多くの児童が毎日食べておらず、だしについては、ほとんど知らないことが分かった。

- 本題材は、食事の役割や日本人の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理方法について学ぶとともに、栄養に関する基本的な知識を身に付けることにより、食事の大切さに気付き、食生活をよりよくしようと工夫したり、それを実践したりすることを目標としている。

我が国の伝統的な日常食であるご飯とみそ汁は、他の料理と組み合わせることで栄養のバランスの取れた食事になるという特徴がある。ご飯は、古くから主食として食べられ、みそ汁は、実の組み合わせによって栄養バランスや旬などを考え、工夫することができる料理である。そこで「米からご飯に変える」「だしのうま味、風味を味わう」という体験を通して、調理の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるとともに、その知識や技能を活用し、おいしく食べるために、健康・安全の視点を取り入れた調理計画を考え、調理の仕方を工夫することで、和食のすばらしさに気付かせることができると考える。

- 本時の指導にあたっては、まず日本の伝統的な日常食が何であるか確認し、共通して喫食している学校給食をきっかけにご飯とみそ汁に着目させる。次に、みそ汁に欠かせないものとして、みそ・実・だしをあげ、みそは味わいの面から、実は具として栄養面から入れていることを確認する。その後、だしは何のために入れるのか、だしの役割について理解させる。その方法として、だし（煮干し）が入っていないみそ汁とだしが入っているみそ汁を準備し、飲み比べを行う。味や香りなどのポイントを押さえて比較し、意見を交流することで、だしの有無によって味や香り

に違いが出ることに気付かせたい。さらに、だしの役割は何であるのか考えを交流させる。最後に、うまみが視覚的に分かる資料を提示したり、和食の代表的な料理にはだしが使われていることを示したりすることで、和食の基本であり、うまみや風味を増すもととなるだしについての理解を深めるようにする。また、煮干しだけではない様々なだしの種類にも気付かせたい。

(4) 指導と評価の計画 (全 11 時間)

次	時	小題材名	評価規準と評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1		○ なぜ食べるのか考えよう	食事の役割が分かり日常の食事の大切さについて理解している。 【観察・ワークシート】		
	1	○ ご飯とみそしるは食事の基本	米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 【ワークシート】	日常の食事の仕方や米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 【観察・ワークシート】	
2	2・3	○ ご飯を炊いてみよう	米飯の調理の仕方を理解している。 【ワークシート】		伝統的な米飯の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】
	4・5 (本時)	○ みそしるを作ってみよう	だしの役割や特徴が分かり、みそ汁の調理の仕方を理解している。 【ワークシート】		伝統的なみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】
	6	○ 食べ物に含まれる栄養素とその働き	食品の栄養的な特徴が分かり、体に必要な栄養素の種類と働きについて理解している。 【ワークシート】		
	7・8	○ 3つの食品のグループとその働き		健康に気を付けて食べるために、日常の食事の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について考えたことを分かりやすく表現している。 【観察・ワークシート】	

	9 ・ 10	○ 栄養を考え たおいしい米 飯とみそし るを作ろう	米飯及びみそ汁の調 理に必要な材料の分 量や調理の仕方につ いて理解していると ともに、適切にでき る。 【観察・ワークシート】	おいしく食べるた めに、米飯及びみそ汁 の調理計画や調理の 仕方について考え、工 夫している。 【観察・ワークシート】	伝統的な日常食であ る米飯及びみそ汁の 調理の仕方について 工夫し、実践しようと している。 【観察・ワークシート】
3	11	○ 日常の食事 に生かそう		おいしく、健康に気 を付けて食べるため に、米飯及びみそ汁の 調理計画や調理の仕 方について実践を評 価したり、改善したり している。 【観察・ワークシート】	生活をよりよくし ようと食事の役割、伝 統的な日常食である 米飯及びみそ汁の調 理の仕方について、課 題解決に向けた一連 の活動を振り返って 改善しようとしてい る。 【観察・ワークシート】

(5) 本時の指導

ア 目標

だしの有無によるみそ汁の味や香りなどの違いを飲み比べ、考えを交流する活動を通して、和食の基本となるだしの役割について理解することができる。

イ 準備物

給食写真(和食) ワークシート 紙コップ 試飲用みそしる2種類(だし無し・だし有り)
だしの実物(昆布・鰹節・煮干し・椎茸・顆粒だし) タブレットPC テレビ

ウ おおずの授業スタンダードの視点と手立て

ひきだそう学習意欲 **じ**っくり考える時間の確保
かんがえを交流させる活動 **わ**かったことをまとめる時間

エ 展開(4/11)

学習活動		○主な発問・予想される児童の反応	○指導上の留意点◎評価
ひ	1 前時の学習を振り返る。	○ 日本の伝統的な配膳の仕方を何と言いましたか。 ・一汁三菜 ○ 日本の伝統的な日常食と言えば、何でしたか。 ・ご飯とみそ汁	○ 日本食の配膳図を提示して、伝統的な配膳の仕方(一汁三菜)を確認させ、日常食であるご飯とみそ汁であることに気付かせる。
	2 みそ汁について話し合い、本時のめあてを確認する。 (1) みそ汁を知る。 (2) みそ汁の中身を知る。	○ 給食のみそ汁の写真を見て、気付いたことはありませんか。 ・実がたくさん入っている。 ・野菜が入っている。 ・季節のものが入っている。 ○ みそ汁の3要素、また、それぞれの役割は何でしょうか。 ・みそ…味付け ・実…栄養 ・だし…「？」	○ 給食写真を提示して、みそ汁の中身に注目させ、みそ汁の3要素を理解させる。

だしの役割を考えよう。

<p>じ</p> <p>3 みそ汁の飲み比べをする。 (1) みそ汁の飲み比べをする。</p> <p>A : だし無し B : だし入り (煮干し)</p>	<p>○ AとBでは、どのように違うか飲み比べをして、気付いたことをワークシートに書きましょう。 (比較のポイント) 見た目・香り・味・その他 ・見た目は同じだなあ。 ・Bは、なんかいいにおい。 ・味が少し違うよ。</p> <p>○ 結果をもとにだしの役割について考えましょう。</p>	<p>○ 比較のポイントを押さえて、だしの有無により味や香りに違いが出ることをワークシートに記入できているか机間巡視をして確認する。</p> <p>○ だしの有無による味や香りの違いから、だしの役割を考えさせる。個別に考えた後、班で話し合わせる。</p>
<p>か</p> <p>(2) 話し合った内容を全体で交流し、だしの役割を理解する。</p>	<p>○ 班でまとめた意見を、発表しましょう。</p> <p>(1) みそ汁の違いについて ・見た目は同じ ・魚のにおいがする。 ・コクがある。</p> <p>(2) だしの役割について ・おいしさのもとになる。 ・うまみや風味が増す。</p>	<p>○ 発表内容が分かるように、各班の発表を板書する。</p> <p>○ だしの役割について理解できるように、板書を工夫する。</p>
<p>わ</p> <p>4 本時の学習をまとめる。</p>	<p>○ 今日のまとめと授業の振り返りを記入し、振り返ったことを発表しましょう。</p>	<p>○ 振り返りのポイントを示し、まとめと振り返りをワークシートに記入させ、発表させる。</p> <p>◎ だしの役割や特徴を理解している。(ワークシート)</p>

だしの役割は、うまみや風味を増して、料理をよりおいしくすること

<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習への意欲を持つ。</p>	<p>○ だしはどうやってとるのでしょいか。みそ汁はどうやって作るのでしょうか。</p>	<p>○ だしの種類を知らせるために実物のだしを準備する。</p> <p>○ 次時の学習へ意欲をもてるようにAとBの作っている過程を視聴させ、次時はみそ汁の調理の仕方を考えることを伝える。</p>
-----------------------------------	--	--

(6) 活動の実際

ア できる・分かる・考え実行する授業づくり

(ア) 体験活動を取り入れた授業展開の工夫

導入で給食のみそ汁の写真を見せて3要素を考えさせることにより、みそ汁について調べていこうと関心を高めることができた〈写真1〉。また、事前のアンケートの結果から、だしの種類や役割について知らない児童が多かったので、実際に飲み比べをしたり、だしの実物を見せたりした〈写真2〉。児童は、さらに関心を高めてだしの役割について調べることができた。



〈写真1 給食献立の画面〉



〈写真2 飲み比べの様子〉

(イ) ヒントカードの活用

ワークシートに記入する際、こういった表現をしたらよいか分からなかったり、自信が持てなかったりする児童のために、ヒントカードを提示した〈写真3〉。「見る」に当てはまる言葉には、「新せん、きれい、みずみずしい」など、「風味」に当てはまる言葉には、「ゆたかな、やさしい、あきのこない」などを提示し、児童が選んだり、自分の言葉を考えたりできるようにした。どの児童も、戸惑うことなくワークシートに記入することができた。



〈写真3 ヒントカードの提示〉

イ 子どもの主体的な学びを促す問題解決的な学習の工夫

(ア) ワークシートの工夫

だしの役割を考えさせるために、飲み比べのポイントを絞ったワークシートを用意した。だし入りとだし無しの違いやだしの良さに気付かせるために、見た目、香り、味などの観点を示し、記入するようにした。児童は、こういったことをワークシートに記入したらよいかの分かり、ヒントカードの言葉を参考に、意欲的にワークシートに記入していった。各自、それぞれに自分の感覚から得られた情報を記入したり、だしの役割について自分の考えを持ったりすることができた〈資料1・写真4〉。

2. 2つのみそ汁を飲み比べてみよう!

	A	B
自分の好み○×	X	X
気付いたこと ・見た目 ・香り ・味 ・その他	見た目 うすい 香り あんまりしない 口味 口味が無い	見た目 色がこい 香り 魚みたく 口味 口味がこい
だしが入っている○×	X	○

〈資料1 飲み比べワークシート〉



〈写真4 個人活動 ワークシートに記入〉

(イ) 班ごとの意見交流

だしの飲み比べの結果を各自でワークシートに記入した後、班ごとに考えを話し合っ
せた。それぞれの飲み比べた感想を伝え合
い、友達と違う感想や考えに気付くことで、
再度飲み比べて味を確かめる児童も見られ
た。友達とだし入りの良さを話し合うこと
で、だしの役割について自分たちなりの考え
を持つことができた〈写真5・資料2〉。



〈写真5 班活動 話し合い〉

- ・ AのみそしるとBのみそしるのちがいが味もよく分かりました。
- ・ だしありの方が、よりおいしくなりました。
- ・ だしを入れても変わらないと思っていたけど、想像以上に変わっていて、こんなに味が変わるんだなと思いました。
- ・ だしの役割として、うまみや風味を増やして、おいしくなるのが分かりました。

〈資料2 児童の振り返り〉

3 成果と課題

授業では、児童全員がめあてをしっかり持って活動することができていた。飲み比べ体験を通して、気付いたことをワークシートに記入させ、友達と考えを話し合う活動を取り入れたことで、主体的な学びにつなげることができた。飲み比べの際に、その視点を明確に示したことで、だし入りとだし無しのみそ汁の違いに気付くことができていた。だしとは何かを理解していない児童が多かったが、この授業を通して、だしを使って作るみそ汁に興味を持つ児童が増えた。体験を通してだしの役割やそのよさが分かり、なぜだしをとるのか実感できたからだと思う。

本時の授業の中で、児童は、だしが入っているBの方がおいしいと感じるだろうと思っていたが、だしが入っていない方をおいしいと感じた児童が予想以上に多かった。魚の味や香りを苦手を感じる児童が多かったためかもしれない。そのため、やや教師主導の授業になってしまったところがあった。

「できる・分かる」と児童が実感したり、生活を豊かにするにはどのようにしたらよいかを考え実行したりできる授業を作るためには、児童の題材への理解度や、それぞれの家庭での扱いを知ることが大切であると改めて感じた。題材への関わり方を前もって把握し、児童の主体的な学びを促す学習の展開を工夫していきたい。

食生活をよりよくしようと実践する子どもの育成

— 第5・6学年複式学級「食べて元気に」の実践を通して —

宇和島支部

1 研究の視点

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習活動の工夫
- (2) 栄養教諭との連携を図った学習活動の工夫

2 実践事例

- (1) 題材名 「食べて元気に」
- (2) 目標

- 食事の役割と食事の大切さ、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方、体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

- (3) 題材設定の理由

- 本校は、へき地極小規模校であり、5年生3名、6年生1名の計4名で家庭科の授業を行っている。知識や技能に差はあるが、両学年ともに家庭科の学習に興味を持って取り組んでおり、6年生は昨年の経験をもとに、5年生に知っていることを教えながら学習している。6年生は、昨年度「こんだてを工夫して」の題材で、工夫して1食分の献立を立てた経験があるが、5年生は、指定された材料やレシピでの調理以外に、自分たちで内容を工夫して調理した経験はない。今年度は全員5年生の内容を学習しており、1学期の調理実習では、卵と青菜、じゃがいものゆで方を理解し、それぞれの適切なゆで時間を考えて、時間を計って丁寧に調理をすることができた。調理をすることのよさや、手順、用具の安全な取扱い方についても理解を深めた。しかし、両学年ともに食事の役割や大切さ、栄養について考えたり、食生活をよりよくしようとしたりするまでには至っていない。
- 本題材は、小学校学習指導要領家庭編「B衣食住の生活」のうち(1)「食事の役割」、(2)「調理の基礎」、(3)「栄養を考えた食事」の3項目に関わっている。本題材では、食事の役割や栄養について理解し、健康で安全な食生活について考える。また、日本の伝統的な日常食である米飯とみそ汁に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるとともに自らの食生活をよりよいものにするための実践的な態度を育てることをねらいとしている。

本題材で扱う米は地域の特産品であり、児童は総合的な学習の時間に米作りを経験しているため、米飯に対する愛着がある。また、みそ汁についても、ほとんどの児童が毎日食べており、どちらもなじみ深い料理である。和食の基本である米飯とみそ汁を中心とした学習を通して、日常の食生活に関心を持ち、食事の役割、栄養素の種類と働き、栄養を考えた食事などの基礎・基本を身に付けることにより、生涯にわたって健康で安全な食生活を送るための基礎となる力を養うことができると考える。

- 本時は、みそ汁の実を考えるに当たって大切だと思うことを確認し、それぞれが作りたいみそ汁の実を考える。栄養教諭からアドバイスをもらい、それを生かして調理実習で5・6年生と一緒に作るオリジナルみそ汁の実を決定していく。アドバイスをもとに、栄養バランスをとったり、旬の食材を取り入れたりすることを話し合い、友達と考えを出し合いながら、自分の考えを広げたり深めたりさせたい。指定された内容ではなく、自分たちで考えたオリジナルのみそ汁を作ることによって楽しさや喜びを味わわせ、工夫して自らの食生活をよりよくしていこうとする実践意欲を育てたい。本校に栄養教諭は常勤していないが、町内の指導に当たっている基幹校の栄養教諭から、ICTを活用してオンラインで指導を受ける。栄養教諭には、本時まで、五大栄養素の働きや、給食で使用している食品に含まれる栄養素についても指導してもらっておく。ま

た、家庭には、調理実習でオリジナルみそ汁を考えていることを伝え、家庭のみそ汁のだしの取り方や実を調べることへの協力を求めたり、食についての話題や実習後の実践などをお願いしたりして、児童の関心を高め、主体的に取り組めるようにしたい。

(4) 本時の指導 (8/11)

ア 目標

- おいしく食べるためにみそ汁の調理計画について考え、工夫する。
- みそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとする。

イ 準備物 タブレット端末、「栄養素のはたらきによる食品の分類」図、食品カード、シート

ウ 展開

分	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価
3	1 本時の学習課題をつかむ。	○ みそ汁作りで工夫したいことはありますか。 ・自分たちで実を工夫してみそ汁を作りたいな。	○ 調理実習で作るみそ汁の実を工夫したいという意見が出ていたことを確認する。
17	2 みそ汁の実を考える。 (1) みそ汁の実を決めるときに大切なことを考える。 (2) 個人でみそ汁の実を考えて、発表する。	オリジナルみそ汁の実を考えよう ○ みそ汁の実を決めるときに何が大切でしょうか。 ・栄養素の勉強を生かしたいな。 ・好みも大切だね。 ○ 自分が作りたいみそ汁の実を考えましょう。 ・この食品の栄養素は何だったかな。 ・友達の考えた実もいいね。	○ 思考ツールを使って考えさせることで、思考を明確にしたり、友達と考えを共有させたりする。 ○ 思いつかない児童への声掛けやアドバイスをする。 ○ 考えがまとまりやすいように、実の種類は三〜四つ程度とする。 ◎ みそ汁の実を決めるときに大切なことについて考え、実を工夫している。(行動観察・シート)
10	3 栄養教諭の話聞く。 気付かせたいポイント ・栄養バランス ・好み ・旬 ・地産地消 ・調理手順など	○ 栄養教諭の先生のお話を聞きましょう。 ・よい点をほめてもらってよかった。 ・旬の食材を取り入れたいな。 ○ 栄養教諭の先生は、給食のみそ汁の実を考えるとき、どんなことに気を付けているか聞きましょう。 ・いろいろなことに気を付けて作られているね。 ・献立全体でバランスをとればいいんだね。 ・調理の手順も考えたいね。	○ オンラインで、栄養教諭からよい点について説明を受けたり、アドバイスをもらったりする。 ○ 給食のみそ汁が、様々なことを考えて作られていることに気付かせる。 ○ 自分たちが調理をする際にも取り入れるとよいポイントがあることに気付かせる。
10	4 みんなで作るみそ汁の実を決定する。	○ 教えてもらったことを取り入れてみんなでみそ汁の実を考えましょう。 ・ご飯は炭水化物だから、みそ汁には、どんな栄養素があればいいかな。 ・とうふやわかめを入れたいな。	○ 栄養教諭から教えてもらったことを参考にさせる。 ○ 自由に意見を交わしながら決めさせる。 ◎ みんなで作る食事を決めるという課題について、解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(行動観察)

5	5 本時の振り返りをする。	○ 今日の学習を振り返りましょう。 ・話し合っってオリジナルみそ汁の実を決めることができた。 ・家でも作りたい。 ・他の食事工夫したい。	○ 学習したことを振り返らせ、食生活をよりよくしようとする実践意欲を高める。
---	---------------	---	--

(5) 活動の実際

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習活動の工夫

(ア) 家庭との連携

みそ汁を毎日口にしていても、家の人はどんなことを考えてみそ汁を作っているのか、どうやってだしをとっているのか意識していない児童もいた。そこで、学級通信で、家庭でのだしの取り方やみそ汁の実について調べることへの協力を呼び掛けた。また、調理実習でオリジナルみそ汁を作ることを家庭に伝え、みそ汁に興味を持たせたり、食事の重要性や体の健康について話題にさせていただいたりするようお願いした。このことにより、児童はみそ汁作りに興味・関心を持ち、自分たちで実際にみそ汁を作ろうという意欲が高まった。

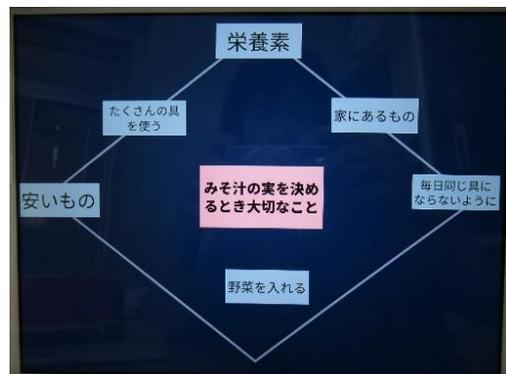
(イ) 思考ツールの活用

本題材の指導に当たって、まず、「なぜ毎日食事をするのだろうか」と問い掛け、思考ツールを使って食の重要性について考えさせた。「食べないと元気がなくなる」「食べないと頭が働かなくなる」「勉強をするため」「健康に過ごすため」など、一人一人が考えたことで、毎日の食事に関心を持ち、健康に過ごすためにどのように食べていけばよいのか学びたいと学習に意欲を持つことができた。

本時においては、みそ汁の実を決めるときに何を大切にすればよいか、思考ツールを使ってそれぞれに考えさせた。児童からは、「栄養素」「好み」「家にあるものを使う」「毎日同じにならないようにする」「野菜をたくさん使う」「値段を考える」などの考えが発表され、思考ツールを使って共有したことで、自分の考えを確認したり、友達の考えを知ったりすることができた(写真1・2)。このことがヒントになり、どの児童も自信を持って活動に取り組むことができた。また、考えた実の栄養素を進んで調べるなど、主体的な取組が見られた。



〈写真1 思考ツールを使う児童〉



〈写真2 児童のタブレット端末〉

イ オンライン授業による栄養教諭との連携を図った学習活動の工夫

本校の給食の献立を考えている栄養教諭から実際に専門的な話を聞き、児童にアドバイスをもらいたいと考え、ICTを活用してオンライン授業を行った。本時までには、児童は五大栄養素について学び、米やみそをはじめとする食品が体の中でどのような働きをするのか考えた。食品カードを分類して、図に貼り考えていく中で、迷うものは栄養教諭に質問して確かめながら、自分たちで食品に含まれる栄養素が分かるようになっていった(写真3)。



〈写真3 食品の栄養素を考える児童〉

本時は、栄養教諭から、それぞれの考えたみそ汁に対して、「栄養を考えている」「家で食べている味を大切にしている」「値段や好みを考えている」などのよさを挙げてもらった。更に、「旬のものを選ぶとよい」「地産地消を考えるとよい」「色どりなども考えるともっとよくなる」などのアドバイスももらった。また、栄養教諭が給食のみそ汁を作るときに気を付けている点として、「献立全体としての栄養バランスを考えている」「調理手順を考えている」などの考えを聞いたことで、児童は自分たちにはなかった視点に気づき、みそ汁だけでなく、食事全体の栄養バランスや調理方法にも意識を向けることができた(写真4)。

次に、友達との調理実習で作るみそ汁の実は何にするか、自由に話し合わせ、考えさせた。栄養教諭には、栄養バランスがとれているか、実際に自分たちで作ることができるかなどに気を付けて話し合いを見守ってもらい、児童はみそ汁の実を決定することができた(写真5)。

本時の振り返りから、児童が栄養教諭との学習でオリジナルみそ汁の実を決定したことに満足感を持ち、実践意欲につながったことが実感できた(資料1)。



〈写真4 オンラインで栄養教諭から指導を受ける〉



〈写真5 児童の話合いの様子〉

- 栄養教諭の先生から教えてもらったので、よく考えて話し合ってみそ汁の実を決めることができました。
- みそ汁を作るのが楽しみになりました。家でも、みそ汁の実を決めて作ってみたいです。

〈資料1 児童の振り返り〉

3 成果と課題

本校に栄養教諭は常勤していないが、ICTを活用することにより、リアルタイムで指導や支援を受け、調理実習で作るみそ汁の実を決定することができた。また、栄養教諭との連携で栄養素についても理解を深め、自分たちの食べている物の栄養について考えるようになった。思考ツールも含め、ICTの効果的な活用によって対話的な学びを充実させ、へき地という環境がデメリットにならないよう、これからも研究を深めたい。

みそ汁の実を自分たちで決めて調理実習をしたことで、児童は家庭でも工夫してみそ汁を作りたいという意欲を持ち、自分たちの食生活について意識する機会になった。

本時は、調理実習で作るみそ汁の実を話し合う活動において、話し合いの視点が明確になっていなかったため、栄養教諭のアドバイスを生かし切れなかった。栄養バランスについて考えることは容易だったが、その他に「旬の食材を使う」や「地元の食材を使う」などに絞った話し合いをさせると、さらに課題意識を持ってよく考えることができたのではないかと思う。

本時の学習で、児童は満足感を得られたが、「みそ汁の実を考える」ということのみ活動になり、これからの食生活をよりよくしようとするところまでには至らなかった。次の課題が生まれるような振り返りの工夫をし、より深い学びにつなげる必要があった。今後も少人数という特性を生かして、一人一人の児童の食生活についてきめ細やかな指導をしていきたい。

研究会報告

1 令和5年度 小学校家庭科夏季実技研修会実施報告

- (1) 期 日 令和5年8月2日(水)
- (2) 会 場 松山市教育研修センター事務所
- (3) 日 程 10:00~10:10 開会挨拶・講師紹介
10:10~12:00 研修
12:00~12:20 閉会挨拶・諸連絡

2 研修内容

「ICTを活用した教材づくりや授業の在り方」
講師：愛媛大学教育学部 教授 藤田 昌子先生

(1) ロイロノート・スクールの活用例の紹介

ア カードの作成→提出→共有

教師の質問に対する答えを、カードの色を変えて提出することで、自分の意思を簡単に伝えたり、児童・生徒間で共有したりすることができる。作成したカードを、発表したい順に入れ替えることで、視覚的なプレゼンテーションを行うことも可能である。

イ 資料の提示や配布

事前に教師が作成しておいた資料を提示したり、各個人に配布したりすることができる。配布機能を活用することで予習をすることもできる。

ウ アンケートやテストの実施

エ Webカードの送信

教師が児童・生徒に閲覧してほしいWebのカードにして送ることができる。

オ 宿題等の提出・添削・返却

カ 写真や動画の撮影→提出

キ シンキングツールの紹介と活用

18種類のシンキングツールを使って、考えやアイデアをまとめたカードを作成することができる(資料1・2)。



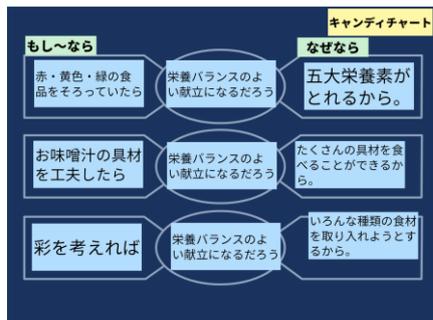
〈 資料1 ウェビング 〉



〈 資料2 くらげチャート 〉

(2) ロイロノート・スクールで家庭科の教材作成・発表

小グループで教材を作成し、発表し合った(写真1・資料3)。短時間ではあったが、授業に使える教材を作ることができた。



〈 写真1 教材作成の様子 〉

〈 資料3 小グループで作成した教材 〉